

全国視能訓練士学校協会

平成 26 年度教員研修会報告書

平成 27 年 3 月

平成 26 年度教員研修ワーキンググループ

はじめに

毎年 8 月に開催する教員研修は、今年度で 7 回目となりました。

年々、教員研修の参加人数は増加しています。視能訓練士養成校の教員が一度に同じ場所に集い、それぞれの教育方針について情報交換できるのは、この教員研修の最大の利点だと思います。

昨年度は、学生が自律性をもって学ぶために教員はどのように導いていくことが求められるかについて重点をおいた学生への教育指導法に関する研修を行いました。

今回の研修会は、学生指導を行う上で必要とされる評価方法について、特に実技試験や実習評価に関することに重点を置いた研修を行いました。教育講演は、「視能訓練士教育における客観的臨床能力試験（OSCE）の実際」というテーマで川崎医療福祉大学 感覚矯正学科の高崎裕子先生にご講演いただきました。そして、グループワークでは①視力、②視野、③眼位、④両眼視機能、⑤レフラクトメータ・ノンコンタクトトノメータ、⑥レンズメータ、⑦検影法の 7 つのテーマのグループに分かれ、各教員がこれまでの経験で得たことから実践している評価方法について情報を提供し合いました。実際にどのような評価項目をあげるのが良いかや評価後の学生へのフィードバックの仕方などの情報を整理できる良い機会になったのではないかと思います。

賛助会員によるセミナーは、「アメリカにおけるドクター・オブ・オプトメトリーの教育」（クーパービジョン・ジャパン株式会社）を行いました。器械展示では、株式会社ティエムアイ様、ジャパンフォーカス株式会社様の 2 社から出展いただきました。

全国視能訓練士学校協会が主催する教員研修は、各教員の見識を深めて実践的指導力の向上をめざした研修の場として今後につながることを期待しています。

ここに、第 7 回教員研修会の報告をさせていただきます。

平成 27 年 2 月吉日

平成 26 年度教員研修ワーキンググループ

代表 小林泰子（川崎医療福祉大学）

横田敏子（大阪医療福祉専門学校）

提嶋紀枝（吉田学園医療歯科専門学校）

露無陽子（帝京大学）

目 次

研修日程	1
教育講演	
講師略歴	4
資料	5
グループワーク	
各班スライド	11
協賛会員協賛企画	35
研修風景（写真）	47
アンケート	
フォーマット	53
アンケート結果	55
意見・感想	58
アンケート単純集計	68
会長評価	69
編集後記	72
加盟校一覧	73

平成 26 年度 全国視能訓練士学校協会

第 7 回教員研修 プログラム

- 目的
1. 視能訓練士養成施設の教育レベルの向上、専門課程の教育指導方法の共有化、養成校教員の個々の指導スキルの向上
 2. 第 7 回の研修では教育講演とグループワークを通して、自ら学ぶ力の育成、各学校での指導内容と取り組み・改善について学ぶ。

受講対象者	全国視能訓練士学校協会 専任教員	
開催日時	平成 26 年 8 月 20 日(水)～21 日(木)	
研修会場	大阪医療福祉専門学校	
研修テーマ	研修Ⅰ（教育講演）「実技・実習の評価」について客観的な評価方法を学ぶ 研修Ⅱ（GW）「各校での実技試験や実習評価をどうしているのか」について	
教育講演	「視能訓練士教育における客観的臨床能力試験（OSCE）の活用について」 講師：高崎 裕子先生 (川崎医療福祉大学 医療技術学部 感覚矯正学科 視能矯正専攻 教授)	
研修内容	教育講演と GW 1 日目：教育講演、GW、懇親会 2 日目：グループワーク発表、賛助会員セミナー 「アメリカにおけるドクター・オブ・オプトメトリストの教育：プライマリーケアのスペシャリストとして」講師：クーパービジョン・ジャパン株式会社 村岡 卓様	
8 月 20 日（水）	13:00	受付開始
	13:30	初日研修開始
	13:30～13:50	概略説明
	13:50～15:20	教育講演（高崎 裕子先生）
	15:50～18:00	グループワークと集合写真
	19:00～21:00	懇親会
8 月 21 日（木）	9:00	開場
	9:15～10:15	まとめ
	10:30～12:30	グループワーク発表
	12:45～13:30	賛助会員セミナークーパービジョン・ジャパン株式会社)
	13:30～14:00	研修総括・終了証授与
		研修終了、振り返りシート、研修後アンケート記載など 機器展示：900～14:00 株式会社 TMI、ジャパンフォーカス株式会社

教育講演

【講師略歴】 高崎 裕子（たかさき ひろこ）先生



講師略歴

- 1977 年 関西大学社会学部卒業
- 1978 年 国立大阪病院付属視能訓練学院卒業
- 1978 年 川崎医科大学附属病院眼科
- 1980 年 岡山大学医学部附属病院眼科
- 1992 年 医療法人社団聖約会佐藤眼科医院
- 2004 年 川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科 助教授
- 2006 年 九州保健福祉大学大学院保健科学研究科修士課程修了
- 2007 年 川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科 准教授
- 2012 年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学博士課程修了
- 2013 年 川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科 教授
- 川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科 副学科長（現在に至る）

専門・研究分野は、OSCE、視能矯正学、眼科健診

視能訓練士教育における客観的臨床能力試験（OSCE）の実際

I. はじめに

教育目標：高い臨床能力を有する視能訓練士を養成する

⇒ 臨床の実際を身近に感じられるような動的な授業展開をするためには？

⇒ OSCE を導入し、臨床技能と態度の向上を図る。

⇒ 視能訓練士用 OSCE に関する報告は、平成 16 年の時点では見られなかった。

II. 視能訓練士の養成に活用する OSCE の開発

⇒ 視能訓練士の臨床業務で頻度の高い検査項目に注目した OSCE を組み立てること

III. OSCE の実際

1. 到達目標の確認

- 3 年生：臨床シミュレーションを通じて、指示された検査を正しく実施する技能とコミュニケーション能力を養うこと。
- 4 年生：臨地実習を行う(基礎的臨床能力の修得を目指す)準備が整っていること。
臨地実習の効果を評価し、次への目標設定を図ること。

2. OSCE の目的

- 形成的評価か、総括評価か？
3 年生で実施する OSCE と 4 年生の臨地実習前 OSCE は形成的評価、
4 年生の臨地実習後 OSCE は総括評価である。
⇒ 形成的評価はフィードバックが必要

3. 実施時期

- 3 年生春学期末（臨床視能学実習Ⅰ）、3 年生秋学期末（臨床視能学実習Ⅱ）
- 4 年生視能臨地実習Ⅳ（12 週間の学外病院実習）の前後

4. 準備

- ステーション設定-- ステーション数と滞在時間、移動時間、タイムスケジュール
必要スタッフ数
- 課 題----- 各ステーションのテーマに即した臨床モデルを選択し、症例データを参考に作成。
- 評価担当者----- 教員と模擬患者
(最少要人数は各ステーションにそれぞれ 1 名、複数が望ましい)
- 模擬患者の決定----- 誰に依頼するか？ テーマは視機能検査か、医療面接か？
テーマの難易性を考慮して配置。

- 模擬患者への準備
 - (1) 視機能検査ステーション(易): 模擬患者の役割とタスクの説明
学生 (医療者)を評価する方法の説明
 - (2) 医療面接ステーション(難): 臨床例より面接モデルを決定
演技シナリオと演技マニュアルを作成
標準模擬患者(複数)の演技練習を指導
学生 (医療者)を評価する方法の説明
- 評価表の作成
 - (1) 各ステーションのテーマに即した教員評価表、模擬患者評価表を作成。
各ステーションでの評価対象は思考過程か、技能自体か？
評価項目は、態度と技能の両領域をカバーしているか？
 - (2) 評価基準は明確であるか？
 - (3) 評価項目は妥当性があるか？
- OSCE 運営会議
 - (1) 評価担当教員、模擬患者、運営スタッフで事前会議を開催する。
 - (2) 評価方法の確認-----基準の確認
評価中に気づいた医療者の問題点の追記依頼
(フィードバック時に使用)
 - (3) 模擬患者同士で患者像を共有し、演技の統一を確認。
- 学生に対する OSCE 実施要領の説明
 - (1) 資料配布----- OSCE の目的、準備物、注意事項、タイムスケジュール、
ステーションのローテーションを確認。
 - (2) フィードバックの有無-----全体、個別
 - (3) 再 OSCE の有無

IV. OSCE 結果とフィードバックの実際

V. まとめ

- (1) OSCE は目的、対象者、評価者と模擬患者数、ステーション課題に応じて自在に実施できる。
- (2) OSCE の結果は、臨床シミュレーション下での臨床実践力を示す。
- (3) OSCE の標準化を図り、将来の視能訓練士としての臨床能力を全国的に担保したい。

- 参考資料
- 1) 医療面接評価表、視機能評価ステーション
 - 2) 模擬患者評価表



学生氏名

SP 名

		ハイ/イエ 1 0	SPが観察した点 (言葉・しぐさ・態度)	SPが感じたこと・思ったこと
導入部	① 挨拶はあったか	1 0		
	② 自己紹介はあったか	1 0		
	③ 名前の確認はあったか	1 0		
	④ 面接の了解を得てくれたか	1 0		
	⑤ 身だしなみは整っていたか (白衣・ヘアスタイル・爪)	1 0		
態度 (行動)	⑥ 座わる位置は適切であったか (90° 法、距離)	1 0		
	⑦ 話を聴く態度は良かったか (目線の位置、手のしぐさ、メモの時間)	1 0		
	⑧ 共感的態度であったか (うなづき・あいづち)	1 0		
	⑨ 言葉づかいは判り易かったか (平易な言葉・丁寧語)	1 0		
	⑩ 話し方は良かったか (声の大きさ・話す速さ・間(話の途切れ))	1 0		
SPの感情変化	⑪ 不安や希望を話せたか	1 0		
	⑫ 話の内容を相手が正しく理解してくれたと思っ たか (言い換え・まとめ)	1 0		
	⑬ 信頼できる人と感じたか	1 0		

(/ 13)

概略評価

とても良い 良い ふつう 悪い とても悪い

全体の印象として貴方はこの医療者と面接して良かったか？

5 4 3 2 1

(最初の信頼関係を築けたか？)

月 日

学生氏名

担当SP

良い ふつう 不可
ハイ イイエ

- | | | | |
|--------------------------|---|---|------|
| 1. 挨拶はありましたか | 2 | 1 | 0 |
| 自己紹介もあれば:2 (自己紹介だけ:0) | | | |
| 2. 身だしなみは良かったですか | | 1 | 0 |
| 白衣、髪の毛が共に整っている:1 | | | |
| どちらかだけだったら:0 | | | |
| 3. 言葉づかいは良好でしたか | 2 | 1 | 0 |
| 4. 安全体勢に気を配ってくれましたか | | 1 | 0 |
| 5. 検査への同意をたずねましたか | | 1 | 0 |
| 6. 検査の説明をしましたか | | | |
| 専門用語を使わなかった | | 1 | 0 |
| 具体的であった | | 1 | 0 |
| 7. 検査要領は良かったですか | | | |
| 検眼枠をセットする要領は良かったか | | 1 | 0 |
| レンズ交換では不快感はなかったか | | 1 | 0 |
| 8. 検査終了の合図と次への指示がありましたか | | 1 | 0 |
| 9. もう一度この人に検査をうけたいと思いますか | | 1 | 0 |
| | (| | /13) |

良い ← (5 4 3 2 1) 悪い →

グループワーク

テーマ

- | | |
|----------------|----------|
| ①視力（精密・スクーリング） | …1 班、2 班 |
| ②視野 | …3 班、4 班 |
| ③眼位 | …5 班 |
| ④両眼視機能 | …6 班 |
| ⑤レフ・ノンコン | …7 班 |
| ⑥レンズメーター | …8 班 |
| ⑦検影法 | …9 班 |

テーマ① 視力 1班(1-A)

視力検査評価法

評価基準

- ・臨床現場に行くことが可能であるか否か
- ・検査の原理・目的を把握しているか
- ・各項目に関して「2(優) 1(可) 0(不)」の3段階で行いその他気づいた点はコメント欄に記入すること

事前設定

- ・模擬患者
→学生(そのまま・アレンジ)・教員・外部
- ・事前情報
→Refの有無・使用法
→患者情報の有無

評価項目(大項目)

- ❖ 事前の検査説明
- ❖ 患者観察
- ❖ PDの測定
- ❖ 裸眼視力の測定
- ❖ 矯正視力の測定
 - 球面レンズ度数の決定
 - 乱視軸の決定
 - 乱視度数の決定
 - 最終微調整

評価項目(小項目) 事前の検査説明

今から視力の確認を行います

2 1 0

どちらの方向に丸の切れ目があるか教えてください

2 1 0

検査用の眼鏡を使用して片目ずつ検査していきます

2 1 0

評価項目(小項目) 患者観察

検眼枠が正しく装用されているか

目を細めていないか

前のめりになっていないか

※上記項目をしっかりと確認できているか

2 1 0

評価項目(小項目) PD測定

ひさを床につけていないか

2 1 0

視線の邪魔をしていないか

2 1 0

提示する指標は正しく設定されているか

2 1 0

正確に測定できているか

2 1 0

評価項目(小項目) 視力測定

視標の提示が適当であるか

球面レンズ度数が適当であるか

乱視軸の決定が行えるか

乱視度数が適当であるか

球面微調整ができるか

検査結果の記載が正確に行えるか

総評

時間内に検査を終えることができたか

声かけは適切だったか

患者と円滑なコミュニケーションが図れたか

不安・不満を与えない検査態度であるか
(被検者評価)

疑問・提案

- ❖ 実技テストとOSCEとの明確な差
- ❖ 最後まで合格しない場合はどうしていくか
不合格者・発達障害のある学生への対応
- ❖ 臨地実習後に評価が下がる要因は何か
- ❖ 患者・評価者による差を無くすために細かい設定が必要になるのでは
- ❖ 模擬患者の確保(評価に差が出ないため)

疑問・提案

- ❖ 初期の段階で簡易的な手法で検査を行い、
コミュニケーション能力の評価を行う
(呼び出し・誘導・患者対応・裸眼視力)
- ❖ 実施する時期に応じてどこに比重を置いて
いくか変化させていく

テ-マ① 視力 2班(1-B)

自覚的屈折検査における実習 実技試験とその評価

目標

- ・ 臨地実習に出る前に最低限必要と思われる、知識・技術・コミュニケーションが備わっているかの確認試験。

被検者の設定

- ・ 方法
 - － 事前に学生の屈折を把握しておき、必要であれば検眼レンズを装用させ中等度近視＋軽度乱視を作る。
- ・ 被検者
 - － 1年生あるいは他学科など対象学年が触れたことのない学生の中で屈折異常がある人に被検者を依頼する。
 - － 良好な矯正視力(1.5)がでる。

試験概要

- ・ 試験時間20分
 - － 被検者を廊下で待たせておき、呼び込み～屈折検査終了し、被検者退場まで
- ・ 右眼の裸眼視力と屈折矯正
 - － レフは測らない。
- ・ 検査課題・試験日は前もって学生に周知させておく。
- ・ 態度と検査技能について可,不可で評価
- ・ 動画撮影を行う。学生には事前に承諾を取る。

受験資格

- ・ 身だしなみが整っていなければ受験を認めない。
 - － 白衣・髪・爪・化粧・ヒゲ

評価項目(態度)

- ・ 挨拶・自己紹介・患者確認
- ・ 表情
- ・ 言葉遣い
 - － 声の大きさ・話すスピード・ふさわしい日本語か
- ・ 安全への配慮
- ・ 検査説明
- ・ 検査の終了を告げたか
- ・ 退場まで見送れたか

評価項目（検査技能）

- 裸眼視力測定
- 最高視力が出る球面レンズを求める
- 乱視の検出（乱視表・クロスシリンダー）
 - － 軸・度数の決定
- 球面レンズの微調整
- 検査中患者の目を見ていたか
- レンズの頂間距離が適切であったか

模擬患者の評価項目

- 態度については、評価者と同じ項目について評価をしてもらう。
- 検査技能については以下を評価してもらう。
 - － 検査中視界を妨げられなかったか
 - － 説明を理解できたか
 - － 検眼枠をセットする要領は良かったか
 - － レンズ交換では不快感はなかったか
 - － もう一度この人に検査を受けたいと思うか

注)ただし、成績には反映しない。

試験結果

- 試験結果を個別に伝える。
- 検査技能についてはひとつでも不可がつけば再試験。すべて可となるまで、試験を繰り返す。
- 態度については総合的に判断する。

その他

- 実習の合間、あるいは実習後に確認として同じ試験を行なってはどうか。
- 撮影した動画については、再試験者に自己チェックさせたり、見本を見せたりするのに活用する。

課題

- 実習直前であり技術評価にも重点を置いているので、一連の流れを見る必要があり、学生一人当たりにかかる時間も多くなる。

テーマ② 視野

3班(2-A)

動的視野検査(GP)

患者設定

- 初診 50歳男性
最近、暗がりで見えにくいとの訴えにて来院
 $RV=0.1(1.5 \times S - 2.50D = C - 0.50DA \times 90^\circ)$
 $LV=0.2(1.5 \times S - 1.50D = C - 1.00DA \times 40^\circ)$

左眼の視野検査(V4/e, I 4/e, マリオット盲点)の指示がでた。

評価項目

- 準備(機器・患者)
 - 説明
 - 検査・手技
 - 患者とのコミュニケーション
- ①評価は可か不可でつける
②所要時間は10分

準備

- 機器の準備
 - 水準器
 - 用紙のセット
 - 視標輝度・背景輝度
 - レンズの用意

準備

- 患者準備
 - 遮蔽・・・貼り方,患者の同意を得る
 - 眼瞼挙上
 - 患者を安全に誘導する(カルテ確認・患者確認)

検査説明

- 検査説明
 - 何を調べる検査か
 - ドーム固視点を注視してもらう
 - 視標が少しでも見えたらすぐにボタンを押す
 - 視標を眼で追わないこと
 - 検査時間
 - しんどくなったときにどうするか

手技・実技

- 指定したイソプターがとれるか
⇒V4/e, I 4/e, マリオット盲点
- レンズを入れるタイミング
⇒30° 以内に入れることができるか
- アームを動かすスピード
⇒一定に保つ
30° 以内で変えることができるか

手技・実技

- プロットの位置
⇒水平・垂直経線の両脇は必ず
前の測定点と同じ経線上にならない
- マリオット盲点の測定
⇒マリオット盲点の位置、測定法
- 固視観察

結果記録

- 必要項目の記入
患者氏名
検者氏名
検査日
測定眼
測定順
使用レンズ
瞳孔径
コメント(挙上・固視状態など)

患者とのコミュニケーション

- ねぎらいの言葉
- 一方的にならない
- 不快にさせない注意方法
- 言葉遣い(年齢に応じて、大きさ)
- 思いやり(患者の様子を常に見る)

※重要項目のため5段階評価

テーマ② 視野 4班(2-B)

静的視野検査の評価

背景

- ・知識を習得しても実技が伴っていない
- ・実技試験評価に対し学生や保護者より教員の主観的評価でないかと問われることがある
- ・大まかな評価表では評価が難しい

目標

- ・静的視野検査(HFA)の実習講義の到達レベルを確認する
- ・養成校間で統一した評価表の作成を目指す
- ・次へのステップのための評価表とする

評価表コンセプト

- ・検査手技に特化する
臨床実習前後の評価ではなく、初回の実技試験評価表とする。(疾患との繋がりを含めない)
- ・学校の指導状況に応じて評価項目を選択する
本評価表では「*」として表記
- ・評価コメント欄を設ける

評価表コンセプト

- ・細やかな評価項目の設定
試験後の指導や試験監督者の負担軽減と試験後の指導に有用
- ・評価コメント欄を設ける
評価項目以外での評価に用いる
- ・5段階評価とする
教員間のばらつきがないように配慮
(2段階や10段階を検討した)

模擬患者

- ・固視不良を3回程度するように指示する
- ・低学年の学生とする
高学年では遠慮をすることがあるため

実技試験 設定

- 使用機器： HFA
- ストラテジー： 24-2 (30-2) SITA-FAST
- 模擬患者： 下級生学生
- 測定眼： 1眼
測定眼は教員が指示
1眼測定後は他眼の検査準備まで

実技試験 設定

- 評価方法： チェックリストによる評価
- 試験時間： 10分
* 時間配分目安
検査前準備 2分、説明 2分、
遮閉 1分、検査 4分、検査後 1分

評価項目「検査前」

実技試験評価表(HFA) : SITA SITA fast 24-2 (30-2) 日時:

評価者: 模擬患者: 受験者:

時間配分 (目安)	評価項目	コメント 有無	5段階評価
10分	検査前		
	身だしなみ		
	必要度数の準備 (C-0.50Dまでは矯正しない)		
	・レンズ度数と軸は適切か		
	* プラスシリンダーフォームのレンズ度数の確認		
2分	データ入力		
	患者呼び出し		
	機器・椅子・顎台の設定		

評価項目「検査説明」

時間	評価項目	コメント 有無	5段階評価
2分	検査説明		
	・視野検査について 検査をすること、眼を動かさないこと 見える深さを評価すること		
	・瞬目が出来るか		
	・視標の出方を説明 明るさの変化 場所が変わること		
	・検査時間		
	・検査時間		
	・応答の仕方		
	・眼は動かさない		
	・疲労時の対処		
	* ボタンから手は離す		
	* ドーム内で話さない		

評価項目「遮閉と挙上」

時間	評価項目	コメント 有無	5段階評価
1分	片眼の遮閉		
	・検査眼の設定		
	・眼帯(ガーゼ、アイパッチ) (4方向か、中央部を膨らませるか)		
	* 光は漏れていませんか? のみではなく測定眼を 遮蔽して光の漏れ確認を行う		
	・眼瞼挙上		
	・頂間距離は適切か		
コメント			

評価項目「検査中」

時間	評価項目	コメント 有無	5段階評価
4分	検査中		
	中心閾値の測定		
	・検査説明が適切か 下方のダイヤモンドの中心固視を促したか		
	固視確認		
	ゲイストラックの設定		
	検査の実際		
	・開始の合図		
	・進捗状況を適宜伝える		
	・検査中の注意		
	・終了の合図		

評価項目「検査中」

検査中	コメント 有無	5段階評価
* 固視以外の患者の観察		
* 額・額当て		
* 偽陽性陰性		
* ボタンの押し方		
* 途中経過の観察		
* 他の患者のデータとの妥当性		
◎ 声掛けの仕方(患者さんに反感を与えないように)		

評価項目「他眼の検査準備」

時間	評価項目	コメント 有無	5段階評価
1分	他眼の検査		
	・他眼遮閉		
	・椅子と顎台を合わせる		
	・矯正レンズの交換		
	・頂間距離の設定		
コメント			

評価項目「検査後」

時間	評価項目	コメント 有無	5段階評価
	検査後		
	終了の処置		
	・終了の告知		
	・眼帯を外したか		
	・患者の誘導		
	・結果のプリントアウト		
	* 結果表の理解 (視力との整合性 中心閾値、M盲点なのに感度があつたり 偽陽性反応、偽陰性反応等)		
	* 不自然な結果に対しては口頭で質疑する		
	* 検査結果の処置 (検者名の入力、必要なコメントの記載はしたか 挙上の有無等)		
コメント			合計
総評			

テーマ③ 眼位
5班

実技試験評価表
眼位検査
(交代プリズム遮閉試験)

・試験対象

3年制 2年生前半から後半
4年制 2年生後半から3年生前半
(基礎視能矯正学を履修後)

・目的

ひとつひとつの実技を確認する
知識・技術・態度

・使用方法

学生が事前に検査のポイントを確認
(予告を早めに行う)
実技試験の評価表
フィードバックの資料

・評価段階

2段階(はい, いいえ)
気づいた点はコメントを付す

評価項目

態度	身だしなみは適切か (爪、化粧、頭髪、髭、白衣、シューズ、香水など)
	言葉遣いは丁寧か
	声の大きさ、トーンなど適切か (例えば、右難聴の場合、左方から話すなど)
安全確認	患者の名前を確認をしたか
	患者の誘導は適切か
検査説明	わかりやすい言葉を用いたか
	患者に応じた言葉を用いたか(年齢、理解力など)
	患者に「説明を理解したか」という確認をしたか

評価項目

検査技術

視標の設定	視標の選択は適切か(種類、大きさ)
	視標の高さは適切か
	目的に応じた視標の距離を設定したか
	視標を見るように指示したか
	視標が見えることを確認したか
	視標を遮っていないか

評価項目

遮閉試験	遮閉—遮閉除去試験(定性検査を行ったか)
	固視眼を確認したか
	遮閉の仕方は適切か
	遮閉時間は適切か
	固視が交代したことを確認したか
プリズム	基底方向は適切か
	保持方法は適切か

評価項目

判定	定性は正しいか
	斜視角の判定は正しいか
	外斜は眼球運動が逆転する手前を斜視角としたか
	内斜は眼球運動が最初に中和した点を斜視角としたか
	上斜は眼球運動が最初に中和した点を斜視角としたか
器機の取扱	丁寧か
結果の表記	記載は正しいか

まとめ

1. 評価表により, 実技の到達度を確認する
2. 以後の指導・学習に反映させる
 - ・学生自身
 - ・教員→学生
 - ・教員間
3. 教員と学生が共有することが重要である

テ-マ④ 両眼視機能 6班

評価表の試案 両眼視機能検査

両眼視機能検査

- 近見立体視検査:
チトマスステレオテスト、TNO、Lang
フリスビー
- 網膜対応検査:
眼位を矯正しない検査
両中心窩を刺激する検査
- 大型弱視鏡

今回取り上げた項目

- 近見立体視検査: Titmus stereo test
- 網膜対応検査:
バゴリニSGテスト
残像検査

上記項目の評価表の作成を討議、試案

* OSCE前段階としての検査手技の評価とした

共通して評価されるべき項目 (両眼視機能検査に限らず)

- 被検者の年齢や理解力に合った検査説明
 - 検査の準備・手技
(機器の取り扱い、検査用眼鏡の着脱などを含む)
 - 設定時間内での測定
 - 結果を正しく記載
 - 結果の解釈
- * これらの項目ができるか否か

検査条件の確認

- 視力、屈折値
- 眼位

など

両眼視に影響する検査条件については
結果の記載によって確認するものとする

近見立体視検査 (Titmus stereo test)

立体視検査 実技評価表		試験日 ●●年●●月●●日	
		学籍番号	氏名
TST			
準備	理解力に合った検査説明・準備・手技ができるかどうか。 (年齢、機器の取り扱い方法(眼鏡の着脱など)、接遇、安全管理を含む)	Yes	No
検査面	検査距離が合っているか。	Yes	No
	検査面の角度。	Yes	No
	検査時の眼位の確認できるか。	Yes	No
	頭位異常の有無を確認する。	Yes	No
	抑制チェックの際の説明の方法。	Yes	No
総合	逆立体(反転)の確認。	Yes	No
	時間内に出来るかどうか。	Yes	No
コメント	検査結果が記載できるか。	Yes	No

* 検査時に変わった所作が合った場合はフィードバック時に確認し、評価する。
(Yes/NO)で評価し、曖昧なものはコメントを残しフィードバック時に評価する。

評価者

網膜対応検査 (Bagolini SG test)

網膜検査検査 実技評価表			
		試験日	●●年●●月●●日
		学籍番号	氏名
Bagolini SG test			
準備	理解力に合った検査説明・準備・手技ができるかどうか。	Yes	No
	(年齢、機器の取り扱い方法(眼鏡の着脱など)、接遇、安全管理を含む)	Yes	No
検査面	(レンズ式の場合) レンズを正しく入れるかどうか。	Yes	No
	(グラス式の場合) 眼に対しグラスをしっかりと当てられているかどうか。	Yes	No
	検査前の眼位の確認ができるかどうか。	Yes	No
	自覚的な見え方をしっかり聞き取れるかどうか。その時の眼位が確認出来るか。	Yes	No
	結果から網膜対応が判断できるかどうか。	Yes	No
総合	能動的視位矯正後の見え方を確認し網膜対応を判定できるかどうか。	Yes	No
	時間内に出来るかどうか。	Yes	No
検査結果が記載できるか。			
コメント			
* 検査時に変わった所作が合った場合はフィードバック時に確認し、評価する。 (Yes/NO) で評価し、曖昧なものはコメントを残しフィードバック時に評価する。			
		評価者	

網膜対応検査 (残像検査)

網膜検査検査 実技評価表			
		試験日	●●年●●月●●日
		学籍番号	氏名
対応検査 (残像検査)			
準備	理解力に合った検査説明・準備・手技ができるかどうか。	Yes	No
	(年齢、機器の取り扱い方法(眼鏡の着脱など)、接遇、安全管理を含む)	Yes	No
検査面	健眼と患眼に与える刺激を適切に選択できる	Yes	No
	被検者の自覚的な見え方を聞くことができる	Yes	No
	網膜対応の状態を判定できる	Yes	No
総合	時間内に出来るかどうか。	Yes	No
	検査結果が記載できるか。	Yes	No
コメント			
* 検査時に変わった所作が合った場合はフィードバック時に確認し、評価する。 (Yes/NO) で評価し、曖昧なものはコメントを残しフィードバック時に評価する。			
		評価者	

まとめ1

- グループ討議の中で、評価における共通の問題点を見いだすことができ、客観性を保つための評価基準を作ることの必要性、重要性を知ることができた。
- 今回は学内実習の技術評価表として作成した。
: 養成校、課程、評価時期により到達目標・到達レベルが異なるため、それぞれの評価基準の設定をおこなう必要がある。
- OSCEの評価基準としては、臨床実習やその後の現場で通用するものとして厳しい基準を設けるべき。

まとめ2

- 項目間に共通に評価すべき項目がある。
- 各検査の特性となる項目についてはピックアップして評価する。
- 一度作成した評価表は、順次見直しをかけ、ブラッシュアップする。
- 養成校全体として卒前に到達すべき最低限のレベルを提示することには意義がある。
- 一方で、各養成校の特色を活かした評価基準があることも必要であると考えられる。

テーマ⑤ レフ・ノンコン 7班

オートレフケラトメータ ノンコンタクトトノメータ

到達目的
臨地実習を行う準備が整っている

背景
専門学校3年過程 2年後期(3月ころ)実施

到達基準
患者の誘導が出来るか
オートレフケラトメータ・ノンコンタクトトノメータを適切に操作できるか

評価基準①

- 挨拶はできるか
- 良好な身だしなみ
白衣にはしわやシミがないか
爪は白い部分が見えていないか
におい 髪の色
- 言葉遣い
声の大きさが明瞭で適切であるか
目を見て話しているか 専門用語を使わない
- 安全・検査体制への配慮
移動中の介助
- 測定中の患者への配慮
声かけのタイミングは適切か 測定回数は適切か

評価基準②

- 検査の内容の説明は適切か
適切な説明 専門用語を使わない
- 機器の高さ。顎台、額あて、いすの位置は適切か
- 設定条件の選択は適切か
- 固視状態や眼振の有無は適切ですか
- 瞬目、瞼裂幅、睫毛の状態を確認し、適切な配慮ができていますか
- 挙上と瞬目のタイミング
- ピント合わせはスムーズか

評価基準③

- 変動幅は3mmHgより大きいとき、再検できる
- 眼圧が高いときはモードチェンジできる
- 機器が接触していないか
- データを正しく評価をできるか
一定の数値になっているか
- 測定回数は適切か
- 眼圧検査終了後の患者への配慮

	よい	わるい
挨拶はできるか	1	0
良好な身だしなみ	1	0
言葉遣い	1	0
安全・検査体制への配慮	1	0
測定中の患者への配慮	1	0
検査の内容の説明は適切か	1	0
機器の高さ。顎台、額あて、いすの位置は適切か	1	0
設定条件の選択は適切か	1	0
固視状態や眼振の有無は適切ですか	1	0
瞬目、瞼裂幅、睫毛の状態を確認し、適切な配慮ができていますか	1	0
ピント合わせはスムーズか	1	0
変動幅は3mmHgより大きいとき、再建できる	1	0
眼圧が高いときはモードチェンジできる	1	0
機器が接触していないか	1	0
データを正しく評価をできるか	1	0
測定回数は適切か	1	0
眼圧検査終了後の患者への配慮	1	0

GWで話し合ったこと

- 実習先で患者さんに実際に行うと指導を受ける
- 実習ガイドラインの使用
- 絶対にやってはいけない行為を行ったときの評価法について
- 評価表だけでは評価しきれない部分をメモする。
- 模擬患者を作れるか
- 待っている間
- 実技試験→OSCEの流れが出来るのか

テーマ⑥ レンズメーター 8班

レンズメータ

OSCEか実技試験か

レンズメータの目的

所持眼鏡が適切な度数であるか、あるいは処方した眼鏡が正しく作成されているかを確認する。

- 学生が正確な測定を出来るか確認したい。
- OSCEよりも実技試験で実施するほうが好ましい。

各校の状況

- 実施時期
- 教員数: 学生数
- 試験時間
- レンズメータの種類と、レンズの種類
- 評価表

課題設定

時期: 臨地実習前

評価者: 学生1名につき評価者1名(理想)

準備器具: 投影式マニュアルレンズメータ
単焦点レンズ1本、累進レンズ1本

時間: 10分以内

指示: 「2本あるメガネのうち累進レンズを測定し、測定した項目を全て記載せよ」

評価項目

- 器械のセッティング(電源とゼロ確認、中心)
- レンズの種類の確認(隠しマーク)
- レンズのセッティング(裏表、固定、受け台への設置、遠用部、扱い)
- 測定(スムーズさ)
- 加入度数(実際に測定、隠しマークとの整合性)
- 記載(度数、乱視軸)
- 測定時間(設定時間をオーバーしていたら不合格)

大項目	小項目	評価(必須項目に×が付くと不合格)	コメント欄
器械のセッティング	電源	○ × 必須	
	ゼロ確認	○ ×	
	中心	○ ×	
レンズの種類の確認	隠しマーク	○ × 必須	
レンズのセッティング	裏表	○ × 必須	
	固定	○ × 必須	
	受け台への設置	○ × 必須	
	遠用部	○ × 必須	
	近用部	○ × 必須	
	扱い	○ × 必須	
加入度数(隠しマークとの整合性)		○ ×	
記載	度数(遠近)	○ × 必須(遠: ±0.25D以内)	
	乱視軸(遠近)	○ × 必須(乱視度により順差設定)	
光学中心間距離	測定したか	○ ×	
	数値	○ × (5mm以内)	
測定(スムーズさ)		○ ×	
測定時間		○ × 必須	

その他の評価項目

- 視度調整(実施の有無、 $+$ → $-$ 、OD)
- 測定($+$ → $-$)
- 記載(スコア図の記載、レンズ式の書き換え)
- プリズム度
- 二重焦点眼鏡

フィードバック・再試験・課題

【フィードバック】

- その日のうちが理想。できるだけ早く。

【再試験】

- 1週間以上の間隔をあけて、十分に練習させてから再試験を行う。

【課題】

- テスト前だけ測定技術が向上する。
 - 臨地実習時にはレベルが下がる。

実施時期

1年生後期、2年生前期、2年生後期、3年生前期

2回実施、単焦点と多焦点は同時期？別時期？どちらが良いか？

4年生ではプリズムの入っているものなど。

試験様式

- 投影式を用いている
- オートでは試験にならない
- メガネの扱い、視度調整を見ている
- 望遠鏡式(テスト用のメガネを用意している)

試験の状況

- 教員1:学生1、教員は4~5人、記載含めて6分の課題だが、終わるまでさせて時間を記載する。単焦点。
- 教員1:学生2~3、5分以内。
- 教員1:学生1、5分。
- 教員1:学生1、2~3本まとめて、数分。
- 教員1:学生1、5分。単焦点、電源入から。
- 教員1:学生多数、単焦点5分、多焦点10分

試験の状況

- 教員:学生＝理想は1:1

実習に関すること

- 視力をするときにレンズメータを使わせる

テ-マ⑦ 検影法 9班

目的

検影法の実技評価方法を検討する

各養成校の現状

学習の時期

1～3年次(3年制、4年制)

1年次と2年次/2年次と3年次/2年次のみ

- 眼光学、生理光学と並行
- 眼光学、生理光学の学習後

授業科目

- 生理光学実習
- 視能検査学各論Ⅰ
- 基礎視能検査学
- 視能検査学実習
- 基礎視能学実習

授業の展開方法

講義 + 実習
(3～7コマ)

模型眼→人眼(散瞳→無散瞳)

自覚的屈折検査(他項目)の最終段階で
度数の過不足を確認するために用いている場合も

評価方法の現状

- 実技(模型眼or人眼)
 - レポート
 - ペーパーテスト
- いずれか、もしくは
これらを組合せる

実技による評価が理想と考えるが、
多くは実際行うことが容易でない状況

問題点と悩み

- どこを到達点にすればよいのか
小児眼科 オーバースキア
- 時間と人員の不足
- 臨床でどのくらい使われているのか
現状が不明

検影法の到達目標

他覚的屈折検査のひとつとして
検影法の理論を理解し、
臨床で有効活用できる。

評価基準の検討

実技評価

はい = 1
いいえ = 0

12項目について行う

評価表

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 機器の設定ができる | (1・0) |
| 2. 開散光を正しく設定できる | (1・0) |
| 3. 検査の説明ができる | (1・0) |
| 4. 検査距離を正しく保てる | (1・0) |
| 5. 固視目標の設定が適切である | (1・0) |
| 6. 同行 逆行 中和の動きが判定できる | (1・0) |
| 7. 板付きレンズの設置距離が適切である | (1・0) |
| 8. 板付きレンズの設置状態が適切である | (1・0) |
| 9. 乱視の検出ができる | (1・0) |
| 10. 記載方法が正しい | (1・0) |
| 11. 屈折値の算出が適切である | (1・0) |
| 12. 屈折値が正しい | (1・0) |

評価基準

1. 機器の設定ができる

評価基準

2. 開散光を正しく設定できる

機種による違いがわかる

評価基準

3. 検査の説明ができる

評価基準

4. 検査距離を正しく保てる

評価基準

5. 固視目標の設定が適切である

無調節状態の測定を目指す

評価基準

6. 同行/逆行/中和の動きが判定できる

評価基準

7. 板付きレンズの設置距離が適切である

眼前12mmの位置

評価基準

8. 板付きレンズの設置状態が適切である

平行を保つ

評価基準

9. 乱視の検出ができる

0.50D以上について

評価基準

10. 記載方法が正しい

パワークロスでの記載

評価基準

11. 屈折値の算出が適切である

検査距離に合わせた計算

評価基準

12. 屈折値が正しい

人眼にて $\pm 0.50D$

模型眼にて $\pm 0.25D$ 以内

まとめ

- 検影法の実習における実技の評価について考えた
- 理想とする到達目標に向けて各校の実情に合わせた実習内容を評価することが重要と考える

平成26年度教員研修会グループワーク班員名簿

テーマ	1班	氏名	所属
①	1	森田 有子	新潟医療福祉
	2	四宮 敦志	吉田学園医療歯科
	3	望月 浩志	国際医療福祉大
	4	今井 哲也	東京医薬
	5	佐藤 千鶴	大分視能訓練士
	6	梅津 綾乃	首都医校
	7	永谷 華代	京都医健

テーマ	2班	氏名	所属
①	1	田保 和也	大阪医療福祉
	2	田野上 恭子	大分視能訓練士
	3	谷口 誠典	神戸総合医療
	4	福田 洋貴	松江総合医療
	5	浦 智香子	福岡国際医療
	6	山田 みずえ	仙台医健

テーマ	3班	氏名	所属
②	1	石井 雅子	新潟医療福祉大
	2	山本 欽一	平成医療
	3	加藤 権治	名古屋医専
	4	田原 洋子	大阪医専
	5	岸上 幸代	大阪医療福祉
	6	横田 敏子	大阪医療福祉

テーマ	4班	氏名	所属
②	1	谷 佳子	新潟医療福祉大
	2	齋藤 真之介	九州保健福祉大
	3	稲垣 尚恵	愛知淑徳大学
	4	小林 泰子	川崎医療福祉大
	5	渡部 暁子	神戸総合医療
	6	大塚 美和子	大分視能訓練士

テーマ	5班	氏名	所属
③	1	野原 尚美	平成医療短大
	2	藤山 由紀子	国際医療福祉大
	3	沼田 公子	九州保健福祉大
	4	岡 真由美	川崎医療福祉大
	5	提嶋 紀枝	吉田学園医療歯科
	6	正 鮎美	大分視能訓練士
	7	田邊 宗子	愛知淑徳大学

テーマ	6班	氏名	所属
④	1	大西 淑子	北海道ハイテク
	2	田邊 恵子	仙台医健
	3	小町 祐子	国際医療福祉大
	4	橋本 諭	大阪医療福祉
	5	山本 雅美	神戸総合医療
	6	西部 尚志	名古屋医専

テーマ	7班	氏名	所属
⑤	1	伊藤 歌奈子	東北文化学園
	2	鯨岡 幸帆	首都医校
	3	松井 康樹	平成医療
	4	川岸 寿幸	吉田学園医療歯科
	5	藤原 聖子	神戸総合医療
	6	原田 裕子	京都厚生学校

テーマ	8班	氏名	所属
⑥	1	四之宮佑馬	国際医療福祉大
	2	松本 美香	大阪医療福祉
	3	難波 哲子	川崎医療福祉大
	4	露無 陽子	帝京大学
	5	佐藤 かおり	東北文化学園
	6	佐藤 奈美	平成医療
	7	田村省悟	九州保健福祉大

テーマ	9班	氏名	所属
⑦	1	藤戸 章子	吉田学園医療歯科
	2	二本柳 淳子	東北文化学園
	3	佐々木 翔	帝京大学
	4	吉本 洋平	大分視能訓練士
	5	丸山 亜美	人間科学大
	6	高崎 裕子	川崎医療福祉大

テーマ	①	視力(精密・スクリーニング)
	②	視野
	③	眼位
	④	両眼視機能
	⑤	レフ・ノンコン
	⑥	レンズメーター
	⑦	検影法

贊助會員協贊企画

賛助会員協賛企画

第7回教員研修の賛助会員セミナーでは、クーパービジョン・ジャパン株式会社 村岡卓様による「アメリカにおけるドクター・オブ・メトリーの教育：プライマリーケアのスペシャリストとして」を行いました。また、器械展示は株式会社ティエムアイ、ジャパンフォーカス株式会社の2社から出展をいただきました。当学校協会では、協賛会員として現在5社からご賛同、ご協力を頂いている。研修の機会にあわせて器械・機材の最新情報の提供をいただき、学生教育にフィードバックできるよう学校協会関係者は研修しました。協賛のご依頼をしたところ、今回3社からのご協力を得ることができたので、併せて報告します。

〔第7回研修会協賛〕

- 株式会社ティエムアイ : 器械展示
- ジャパンフォーカス株式会社 : 器械展示

＜器械展示＞

器械展示会場では検査器具を手に取り、質問や説明を受ける風景があちこちで見受けられました。視能訓練士業務に関連した機器に特化した展示は学会と一味違い、集中して見る事ができたようです。



今回で4回目になる協賛会員によるセミナーと機器展示は、教員として最新の知見や機器に触れる貴重なものである。日々多岐の業務に追われる教員にとっては的を絞ったこのような研修はありがたいことです。

最後に、今回ご協力を頂いた3社に感謝申し上げるとともに、賛助会員の皆様には今後ともご支援いただきたく WG 一同よりお願い申し上げます。

賛助会員セミナー

クパ・ビジョン・ジャパン株式会社
村岡卓様

アメリカにおける
「ドクター・オブ・オプトメトリー」の教育



アメリカにおける
「ドクター・オブ・オプトメトリー」の教育：
プライマリーケアのスペシャリストとして



本日のお話：

- 眼科専門医の次の眼のプロフェッショナルであるオプトメトリーにおいて、世界で最も高度な教育がされているアメリカの教育プログラムと現状、それから歴史を知ることにより、日本における視能訓練士の教育の大きな方向性を考える一助になれば幸いです。
- 細かい教育のテクニックを共有させていただくのではなく、大きな教育プログラムの流れを感じて、必要な教科（活動）を見直していただき新しい教育の流れを創造していただきます一助になれば幸いです。

内部資料

3



本日のお話：

- オプトメトリーの現状
- オプトメトリーの歴史
- オプトメトリー教育プログラム

内部資料

4



アメリカでは：

- アイドクター = ドクター・オブ・オプトメトリー (O.D.)
オプトメトリックドクター
オプトメトリスト
- アイサージョン = 眼科専門医
(Ophthalmologist)
- M.D. = ドクター・オブ・メディシン
専門医になる前の医学部卒業の学位

内部資料

5



アメリカでは：

- 世界的にアメリカのみがオプトメトリーの教育において、ドクタープログラムをスタンダードにしています：
- BS（バACHEラー・オブ・サイエンス）学位（4年生の大学卒業学位）を一定の基準の成績で取得した者のみが、入学試験に合格すれば、オプトメトリー学部に入学できます。
- 4年生の大学を卒業してからの、4年間の教育プログラムです。

内部資料

6



アメリカでは：

- ドクターの学位：
 - Doctor of Optometry, Medicine, Dentist, Law, Science, Education, Information Technology, Computing, Health and Science, Liberal Studies, Social Science
 - 専門職に就きサービスを提供する為の学位
- Doctor of Philosophy (Ph.D.):
 - 研究者や大学の教授になる為の学位



ドクター・オブ・オプトメトリー

オプトメトリー学部（専門大学院コース）に入学するために必要な主なB.S.（理科系）科目：

- | | |
|-------------|-------------|
| • 化学 I・II | • 有機化学 I・II |
| • 物理 I・II | • 一般全身解剖学 |
| • 数学 I・II | • 一般全身生理学 |
| • 統計学 I | • 生物学 I・II |
| • 微生物学 I・II | • その他選択科目 |



ドクター・オブ・オプトメトリー

開業するためにはO.D.学位取得後に2つの試験に合格する必要があります：

- アメリカ全土共通試験（ナショナルボード）
- 州の試験（ステートボード）

アメリカにおいては、各州が一つの国のようなもので、独自のルールを持っています。



ドクター・オブ・オプトメトリー

プライマリーケアのスペシャリストとしての主な責任範囲：

- 眼鏡処方
- コンタクトレンズ処方
- 視機能訓練/リハビリテーション
- 眼病と眼に関わる全身病の予防：
 - 予防医学の考え方が進んでいます
- 眼病の診断と薬剤による治療



アメリカ以外のオプトメトリー教育プログラム：

高校卒業後の教育プログラムが主です：

- オプトメトリストになる為の教育プログラム：
 - 4年生大学の学部
 - 4年生の専門大学
 - 2～3年生の専門学校



アメリカ以外のオプトメトリーの主な責任範囲：

- 眼鏡処方 ～ 眼病の診断までの範囲で、国や地方ごとに異なる。
- スリットランプの使用が許されていない国もあります。



オプトメトリーの歴史



オプトメトリーの歴史

- 1263年 ロジャー・ベーコン（Roger Bacon）は、「レンズは見え方が良くない人々を助けることができる」と語った。
- 1286年 イタリア北部の職人が眼鏡を造ったとされる。
- 1604年 ヨハネス・ケプラー（Johannes Kepler）は、網膜の機能を説明して、更に、凹レンズが近視を矯正、凸レンズが遠視を矯正できることを説明した。



- 1621年 ヴィレブロルト・スネル（Willebrord Snell）は、光の屈折の法則「スネルの法則」を発見した。

内部資料

14



オプトメトリーの歴史

- 1623年 ダサ・デ・バルデス（Daza de Valdes）は、スペインで最初のオプトメトリーの原理を説明した本「眼鏡のてびき」を出版した。
- 1629年 キング・チャールズ1世（King Charles I）国王は、ロンドンにある眼鏡製造メーカーに特許状を寄与した。
- 1783年 ジョン・マカリスター・シニア（John McAllister, Sr.）は、アメリカにおいて最初のオプトメトリックサービスを提供するお店（個人店舗）を、フィラデルフィアに開いた。1816年まで、彼と彼の息子は、20世紀初期まで販売された銀と金を使用した眼鏡を造った。



内部資料

15



オプトメトリーの歴史

- 1784年 ベンジャミン・フランクリン（Benjamin Franklin）は、境目のある遠近両用眼鏡を発明した。



- 1798年 ジョン・ドルトン（John Dalton）は、色覚異常を説明した。

内部資料

16



オプトメトリーの歴史

- 1801年 トマス・ヤング（Thomas Young）は、乱視を発見し、また、最初に正常な視野をプロットしました。1821年に、最初の円柱レンズが造られた。
- 1843年 眼鏡をフィッティングする道具とは別に、処方度数を決めるための検査用レンズを収めたトライアルレンズケースセットが発明された。



内部資料

17



オプトメトリーの歴史

- 1847年 英国の眼鏡士ジェームス・プレントイス（James Prentice）が、アメリカに移住した。彼の息子のチャールズ・エフ・プレントイス（Charles F. Prentice）は、アメリカのオプトメトリーの父と呼ばれるまでになった。
- 1851年 ヘルマン・フォン・ヘルムホルツ（Hermann von Helmholtz）は、眼底鏡を発明して、生きている人の眼の内部を初めて観察した。



内部資料

18



オプトメトリーの歴史

- 1856年 ヘルマン・フォン・ヘルムホルツは、生理光学の本を執筆した。記念すべき3巻からなる学術本となった。1924年に、ジェームス・ピーシー・サウソール (James P.C. Southall) によってドイツ語から英語に翻訳された。



- 1862年 ヘルマン・スネレン (Hermann Snellen) は、検査項目を考案し、更に、視力を測定する視力表を 発明した。



内部資料

19



オプトメトリーの歴史

- 1864年 フランシスカス・ドンダース (F. C. Donders) は、眼の屈折異常と調節異常についての本を出版した。処方箋の原理と基準を構築した。彼は、初めて検査レンズセットに円柱レンズを加えた。



- 1865年 オランダにおいて、ヴェルショール (Verschoor) が、屈折に関する学位論文の中で、初めて「オプトメトリー」という言葉を使用した。

内部資料

20



オプトメトリーの歴史

- 1872年 アメリカで初めてのオプトメトリー専門学校「イリノイ・オプトメトリー専門学校」が開校されました。最も古い継続されてきている教育プログラムであり、シカゴ、北イリノイ、ニードルス、McFatrigh オプトメトリー専門学校の教育プログラムの基になっている。
- 1873年 クィグネット (Cuignet) は、レチノスコピーの方法と原理を説いて、レチノスコプを発明した。

内部資料

21



オプトメトリーの歴史

- 1886年 エドモンド・ランドルト (Edmond Landolt) が執筆した本「眼の屈折と調節とその異常」の英訳されたものが出版された。眼の屈折状態を把握することをオプトメトリーと表現されたが、屈折眼鏡士と表現されることは少なかった。チャールズ・ブレンチス (Charles Prentice) は、プリズム度数の測定を開発して広げた。
- 1887年 イー・フィックとエフ・エー・ミュラー (E. Ficke and F.A. Mueller) は、別々に吹きガラス製のコンタクトレンズを試作した。
- 1888年 屈折異常を成功裏に矯正する初めての強膜コンタクトレンズが造られた。



内部資料

22



オプトメトリーの歴史

- オプトメトリストによるオプトメトリストの為の教科書が執筆された。アメリカ眼鏡士協会設立メンバーのウィリアム・ボーネ (William Bohne) によって執筆された「眼鏡士のてびき」であった。
- 1895年 チャールズ・エフ・ブレンチス (Charles F. Prentice) は、眼の検査費 (医学診療では認められていた) を請求して、逮捕される危機に面した。1896年に、彼は、州が専門職としてオプトメトリストを認めるべきだとの論文を提出した。
- アメリカで最初のオプトメトリーの専門誌が発刊された。「光学/視覚」

内部資料

23



オプトメトリーの歴史

- 1898年 アメリカ眼鏡士協会の設立。1910年にアメリカ光学/視覚協会に名称を変更。1919年にアメリカオプトメトリック協会に名称を変更。
- 1901年 初めて、ミネソタ州で、オプトメトリーの診療が法的に認められた。(1921年までに、全ての州でオプトメトリー診療の法が定められた。)
- 1910年 コロンビア大学に初めてのオプトメトリー学部が設立された。(1910年~1954年) このことは、更に、オプトメトリーの専門性を知らせる大きな一歩となった。

内部資料

24



オプトメトリーの歴史



内部資料

25



オプトメトリーの歴史

- 1911年 アオンドリュー・ジェー・クロス（Andrew J. Cross）は、動的スキアメトリーについての論文を発表して、動的レチノスコピーの基本的原理と検査実施方法を説明した。
- 1914年 オプトメトリストは、自動車免許取得・更新において、視機能と自動車の運転との密接な関係を説明して、視力検査を含めた視覚検査の義務化を実現した。
- 1915年 ペンシルベニア州最高裁は、オプトメトリーは現存の医療の資格、診療、教育制度ではコントロール出来ない（適合しない）、独立した専門職であると規則化した。ペンシルベニア州のオプトメトリストは新しい規則に従い独立した専門職として確立する活動を始めた。

内部資料

26



オプトメトリーの歴史

- 1919年 オプトメトリーの資格試験実施を含めた資格制度を担う組織が設立された。（当初は、International Board of Board (IBB)の名称であったが、1954年にInternational Association of Boards of Examiners in Optometry (IAB) に変更され、現在は1999年に更に名称変更されたthe Association of Regulatory Boards (ARBO) である。
- 1922年 オプトメトリーの学会（学会組織）が設立された。（American Academy of Optometry）設立の目的は、オプトメトリー分野の研究を活性化させ、倫理性と科学性を高めることである。

内部資料

27



オプトメトリーの歴史

- 1922年 ミズリー州のセントルイスで最初のアメリカ全土より関係者が集まったオプトメトリー教育学会が開催され、アメリカ全土におけるオプトメトリーの教育基準が確立された。
- 1923年 ペンシルバニア大学オプトメトリー学部が最初のドクター学位（ドクター・オブ・オプトメトリー）を与える教育プログラムとなった。
- 1924年 コロンビア特別区においても、オプトメトリーの制度が導入されて、アメリカ全土でオプトメトリーの制度が確立した。

内部資料

28



オプトメトリーの歴史

- 1928年 日常的に実施するオプトメトリーの検査項目と考え方が公表され、これが後に、視機能異常者の症例分析法へと発展した。
- ニューヨーク州において、一般大学に属しているオプトメトリー学部を卒業した者だけが資格試験を受けることが出来る制度が施行され、それまでの資格試験を受けるための見習い制度は廃止された。
- 1936年 オクラホマ オプトメトリー協会が、オプトメトリーの継続研修プログラムを開始した。
- 1937年 診療医師により執筆されたオプトメトリーに関する、事実無根で公平でない意見が、一般大衆誌「リーダーズダイジェスト」に掲載されて、オプトメトリストと診療医師の間がギクシャクする原因となった。

内部資料

29



オプトメトリーの歴史

- 1938年 診療医師よりの批判を受けて、アメリカ オプトメトリー協会の協力のもと、本「オプトメトリーの生い立ち」が出版された。
- 初のプラスチック（PMMA：1915年に塗料の結合剤として発明されていた）製の強膜コンタクトレンズが発表された。
- 1941年 ニューヨーク州在中のオプトメトリストによりコンタクトレンズの教科書が作成された。
- 1947年 初めてアメリカ軍よりの委任を受けて、軍事関係者の総合病院で働くようになった。
- 1948年 薄くて小さい初めての角膜コンタクトレンズ（PMMA製）の特許が認められ、発表された。

内部資料

30



オプトメトリーの歴史

- 1950年 軍事関係で働くオプトメトリストの協会が設立された。1970年に設立された、Armed Forces Optometric Society (AFOS) の基となった。
- 1951年 アメリカ全土共通の資格試験・制度を担う組織「1951 National Board of Examiners in Optometry (NBE0)」が設立され、翌年1952年に初めてのアメリカ全土共通の資格試験が実施された。
- 医療サービス組織において、初めてオプトメトリー科が設立された。

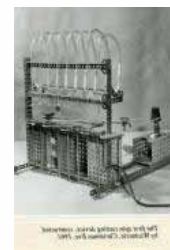
内部資料

31



オプトメトリーの歴史

- 1952年 初のソフトコンタクトレンズの素材HEMAがOtto Wichterleによって発明された。1961年にスピんキャスト製法により、HEMA素材の初のソフトコンタクトレンズが製造された。



内部資料

32



オプトメトリーの歴史

- 1961年 ペンシルベニア州のオプトメトリストによって、診断のために必要な薬剤の使用が出来るように求めたが、認められなかった。
- 1965年 アメリカ国家による、ヘルスケアサービスプログラムにおいて、オプトメトリストは除外された。
- 1968年 アメリカのオプトメトリー学部のある学生の協会が設立された。
- アメリカ国立眼病研究所が設立され、オプトメトリストが研究メンバーに選ばれ、発展と進化に大きく寄与した。
- 1969年 国民オプトメトリック協会が設立され、少数民族への専門的なアイケアサービスを提供できるように注力した。

内部資料

33



オプトメトリーの歴史

- アラバマ州で、大学の総合病院と一体化した、オプトメトリー学部が設立された。(アラバマ州立大学)
- 1971年 アメリカFDAが、B&L社にソフトコンタクトレンズの製造販売の承認をした。1974年に消費者への宣伝広告が開始された。
- ロードアイランド州で、アメリカで初めてオプトメトリストが診断のために必要な薬剤の使用が認められた。1989年までにDCを含めた全州で認められた。
- 非接触型眼圧計が開発された。
- 1972年 初めてのオプトメトリックサービス奉仕活動協会が設立され、金銭的理由等でサービスが受けられない人々へのサービス提供活動が始まった。

内部資料

34



オプトメトリーの歴史

- 1973年 ノースカロライナ州で、アメリカで初めて、オプトメトリストによる診断と治療のための薬剤の使用が認められた。
- 1976年 ウェストバージニア州で、初めての法律が定められ、オプトメトリストによる治療のための薬剤の使用が法制化された。(1998年までにDCを含めた全土で法制化された。)
- 1977年 アメリカ退役軍人協会において、オプトメトリー診療が本格的に開始され、アメリカにおけるオプトメトリー教育の代表的な組織となった。
- 1981年 65歳以上の老人医療制度において、オプトメトリストによる無水晶体眼への診断と治療が保険制度に組み込まれた。

内部資料

35



オプトメトリーの歴史

- 1986年 65歳以上の老人医療制度において、オプトメトリストによる無水晶体眼以外の患者に対する診療と治療に関しても、保険制度に導入された。
- オプトメトリーの奮いの言葉が、オプトメトリー協会とオプトメトリー学校教育協会によって標準化され、さらに専門職としての道徳性、倫理性を高めた。
- 1990年 神経オプトメトリーリハビリテーション協会が設立された。
- 1995年 国が進めている円錐角膜等を含めた多くの研究にオプトメトリストが参加した。
- 1998年 オクラホマ州で、オプトメトリストによるレーザーの使用が特定の治療に認められる法律が制定された。

内部資料

36



オプトメトリーの歴史

- ・オプトメトリーの起源は、レンズ（眼鏡）による屈折矯正です：
 - ・乱視を認識して、円柱レンズによる乱視矯正
 - ・調節機能の発見と研究
 - ・プリズム測定システムの発明と応用研究
 - ・レチノスコプの発明と他覚検査の実施
 - ・動的レチノスコピーの発明と研究
 - ・眼底鏡の発明と眼内の観察
 - ・ハードコンタクトレンズの発明
 - ・ソフトコンタクトレンズの発明
 - ・両眼視と視機能分析の研究
 - ・オプトメトリー一般眼の検査の標準化

内部資料

37



オプトメトリー視機能検査（一般）

- ・米国式21項目検査：
 - #1 直像鏡による前眼部、透光体、眼底の検査
 - #2 角膜曲率半径の測定
 - #3 従来の眼鏡又は裸眼による遠見時に於ける水平斜位の測定
 - #13A 従来の眼鏡又は裸眼による遠見時に於ける水平斜位の測定
 - #4 静的検査法
 - #5 動的検査法（50cm）
 - #6 動的検査法（100cm）

内部資料

38



米国式21項目検査

- #7 自覚的屈折検査：
 - 7M：単眼最高視力を得られる最高プラス側度数
 - 7A：調節バランス後の両眼最高視力を得られる最高プラス側度数
 - 7B：調節バランス後の両眼で1.0の視力を得られる最高プラス側度数
- #8 7Mによる遠見時に於ける水平斜位の検査
- #11 7Mによる遠見時における開散力の測定
- #9 7Mによる遠見時における輻輳力の測定：
 - 鮮明に見ようと努力してもボケル値

内部資料

39



米国式21項目検査

- #10 7Mによる遠見時における輻輳力の測定：
 - 複視の発生する値
- #12A 7Mによる遠見時に於ける上下斜位の測定
- #12B 7Mによる遠見時に於ける上下よせの測定
- #13B 7Mによる近見時に於ける水平斜位の測定
- #14 クロスシリンダーによる調節ラグの測定：
 - 14A 単眼ずつの調節ラグの測定
 - 14B 両眼による調節ラグの測定
- #15A 単眼による調節ラグの測定に基づく近見時の水平斜位の測定
- #15B 両眼による調節ラグの測定に基づく近見時の水平斜位の測定

内部資料

40



米国式21項目検査

- #16 近見時に於ける実性相対輻輳力の測定
- #17 近見時に於ける虚性相対輻輳力の測定
- #18A 近見時に於ける上下斜位の測定
- #18B 近見時に於ける上下よせの測定
- #21 虚性相対調節力の測定
- #20 実性相対調節力の測定
- #19 調節近点及び調節力の測定
 - 19A 調節近点の測定
 - 19B マイナスレンズによる調節力の測定



内部資料

41



米国式21項目検査前の予備検査

- 予備検査：
 - 視力検査（片眼視力、両眼視力）
 - カバー・テスト
 - 利目
 - 輻輳近点
 - ひき運動とむき運動の検査
 - 瞳孔反応の検査（対光反射/輻輳反応）
 - 瞳孔距離の測定
 - 外眼部の検査

内部資料

42



43



-



48

カリキュラム：1年生春コース

- ・患者を中心に考える医療：専門家連携の医療 II
- ・病気・免疫・薬剤の基礎
- ・神経科学
- ・診療行動心理学
- ・オプトメトリー診療の原理Ⅲ：屈折検査
- ・視科学 I：視覚の神経学原理
- ・光学 II：眼光学の基礎
- ・診療管理 I
- ・患者のケアサービス II



カリキュラム：2年生秋コース

- ・専門家連携の健康管理 I
- ・オプトメトリー診療の原理Ⅳ：前眼部評価
- ・眼薬理学：一般的原理
- ・視科学 II：片眼視における感覚支配
- ・視科学 III：視覚の発達
- ・視科学 IV：環境と視覚
- ・光学 III：幾何光学 II
- ・光学 IV：眼光学
- ・光学 V：生理光学
- ・眼病 I：前眼部異常の診断と治療
- ・サービス ラーニング（社会貢献実体験学習） I
- ・患者のケアサービス III



カリキュラム：2年生春コース

- ・専門家連携の健康管理 II
- ・コンタクトレンズ学 I：理論と実践（診療）
- ・オプトメトリー診療の原理Ⅴ：後眼部評価
- ・視科学 V：両眼視と眼球運動
- ・視科学 VI：生理光学
- ・視科学 VII：眼鏡のお渡しと管理の原理
- ・眼病 II：緑内障の診断と治療
- ・小児科における注意事項
- ・全身の薬理学：代表的な40種類の薬剤
- ・行動科学オプトメトリー：診断と治療
- ・サービス ラーニング（社会貢献実体験学習） II
- ・CPR
- ・患者のケアサービスⅣ



カリキュラム：2年生夏コース

- ・所見によるアイケア
- ・診療管理 II
- ・眼病 III：神経的眼病の診断と治療
- ・患者のケアサービス V



カリキュラム：3年生秋コース

- ・患者のケアサービス VI
- ・コンタクトレンズ学 II：理論と実践（診療）
- ・老人病における注意事項
- ・オプトメトリー診療の原理Ⅵ：特別検査項目
- ・眼病 IV：後眼部の異常の診断と治療
- ・神経オプトメトリーリハビリテーションⅠ：斜視と弱視
- ・神経オプトメトリーリハビリテーションⅡ：神経的に異常がある患者



カリキュラム：3年生春コース

- ・患者のケアサービス VII
- ・眼病 V：全身病と眼
- ・弱視のリハビリテーション
- ・プライマリーケアにおける患者との接し方
- ・オプトメトリーの現状
- ・選択科目 I
- ・選択科目 II
- ・サービス ラーニング（社会貢献実体験学習）Ⅲ



カリキュラム：4年生秋コース

- 患者のケアサービス Ⅷ
- 患者のケアサービス Ⅸ

カリキュラム：4年生春コース

- 患者のケアサービス X
- 患者のケアサービス XI
- 診療管理 Ⅲ：オプトメトリストとして生活して行く

内部資料

55



ドクター・オブ・オプトメトリー カリキュラム

- 講義と実習の密な連携：
 - 講義の内容を実習で理解を深める、実感させる
 - 実習が非常に重要だと認識される教育内容
 - 自発的な勉強意欲の向上
- 社会奉仕活動への参加：
 - 地域の清掃活動
 - 老人施設の介護のヘルプ・・・・
- 1年生よりの患者アイケアサービスの実施：
 - 幼稚園、小中高学校、地域社会のアイケアスクリーニングへの参加

内部資料

56



ドクター・オブ・オプトメトリー カリキュラム

- アイケアスクリーニング：
 - 簡単な問診
 - 裸眼と現在の矯正視力（遠方と近方）の測定
 - カバーテスト（遠方と近方）
 - NPC
 - 眼球運動の確認
 - 視野の確認
 - レチノスコープと板付きレンズによる他覚屈折検査

内部資料

57



ドクター・オブ・オプトメトリー カリキュラム

- オプトメトリー道徳・倫理の徹底指導
- 専門職（他のヘルスケアスペシャリスト）連帯のサービスの重要性の理解と実感
- 光学、視科学、屈折と両眼視基盤の教育
- リハビリテーションと脳神経の可能性
- 患者コミュニケーションの重要性と実施
- 卒業研究論文の作成と発表会：
 - 自己研究実施の方法の理解と習慣を身につける

内部資料

58



アメリカにおけるオプトメトリー （学部）スクール

- AL: [University of Alabama at Birmingham](#) ^[44]
- AZ: [Midwestern University Arizona College of Optometry Glendale, Arizona](#)
- CA: [University of California at Berkeley](#) ^[52]
- CA: [Southern California College of Optometry](#) ^[53]
- CA: [Western University of Health Sciences](#) ^[44]
- FL: [Nova Southeastern University](#) ^[54]
- IL: [Illinois College of Optometry](#) ^[55]
- IN: [Indiana University](#) ^[56]
- MA: [New England College of Optometry](#) ^[57]
- MA: [Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences School of Optometry](#) ^[44]
- MI: [Michigan College of Optometry at Ferris State University](#) ^[58]
- MO: [University of Missouri at St. Louis](#) ^[44]
- NY: [State University of New York in New York City](#) ^[59]
- OH: [The Ohio State University](#) ^[60]
- OK: [Northeastern State University](#) ^[44]
- OR: [Pacific University in Portland, Oregon](#) ^[61]
- PA: [Pennsylvania College of Optometry](#) ^[44]
- PR: [Interamerican University of Puerto Rico, School of Optometry](#) ^[62]
- TN: [Southern College of Optometry](#) ^[63]
- TX: [University of Houston](#) ^[64]
- TX: [University of the Incarnate Word](#) ^[44]

内部資料

59



ご清聴いただきまして誠に有難うございました。



研修風景

1日目

受付



湖崎 克 先生ご挨拶



教育講演



グループワーク



懇親会



2日目

グループワーク・発表



賛助会員セミナー・器械展示



会長講評



修了証授与



アンケート結果

4. 研修会の運営について

- ① 開催日の設定 (よい よくない どちらともいえない)
よくないとすれば、いつ頃がよいでしょうか ()
- ② 全体タイムスケジュール (よい よくない どちらともいえない)
- ③ 事前・直前アナウンスについて、何かご要望、ご意見等ございましたらお書き下さい。

- ④ その他研修会運営に関するご意見、ご要望等

5. 研修会は教育活動の参考になった (なった ならない どちらともいえない)

6. また研修会に参加したいと思いますか (思う 思わない どちらともいえない)

7. コマシラバスの作成が研修会の中にあつた方がいいと思いますか
(思う 思わない どちらともいえない)

8. 参加費の金額(懇親会含む)はどのくらいがよいと思いますか
(4,000 円 5,000 円 6,000 円 7,000 円 その他 円)

9. 研修会全体に対するご意見、ご要望

~~~~~  
最後に、研修会に対するご意見とは別に、今回の研修を振り返って、ご自身の感想などをお聞かせください。

ご協力、ありがとうございました。

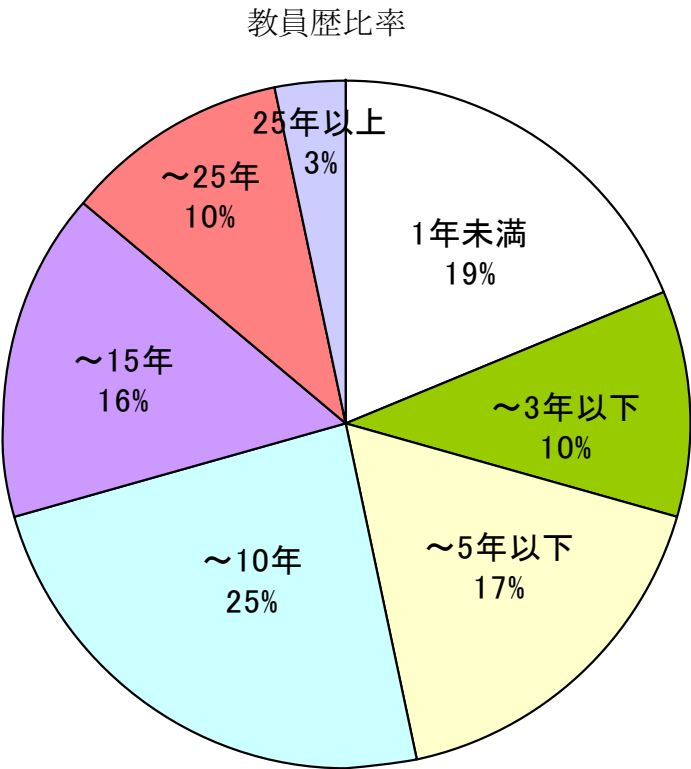
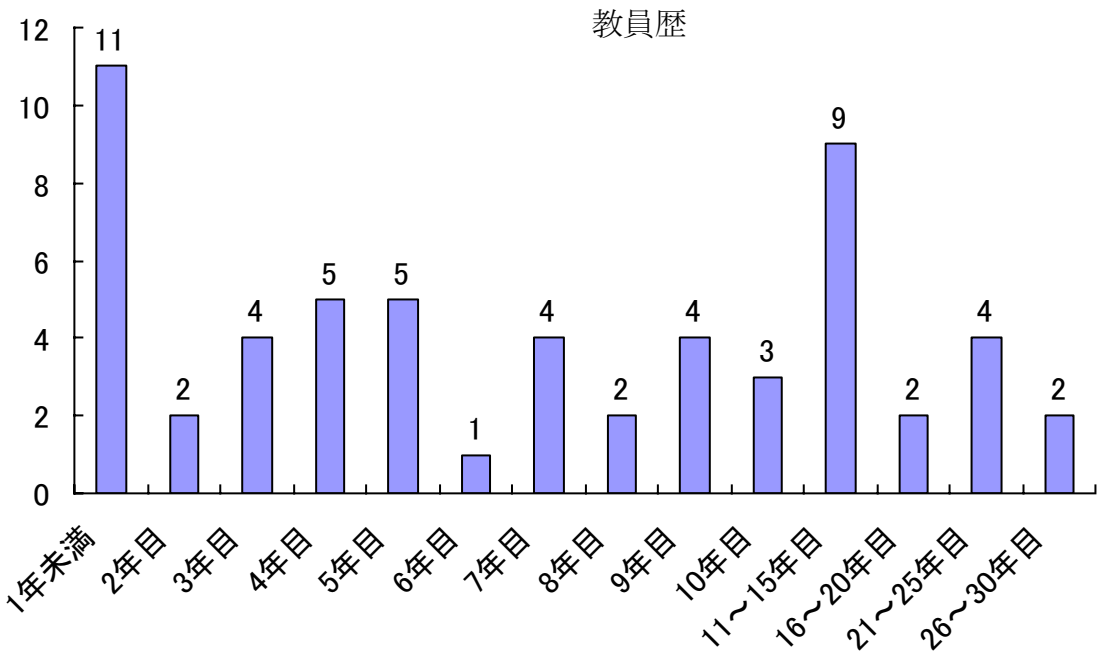
第七回教員研修会 アンケート結果

平成 26 年 8 月 20・21 日

参加者人数 58 名（全日程通し参加者 58 名）

アンケート回答者数 58 名（100%）

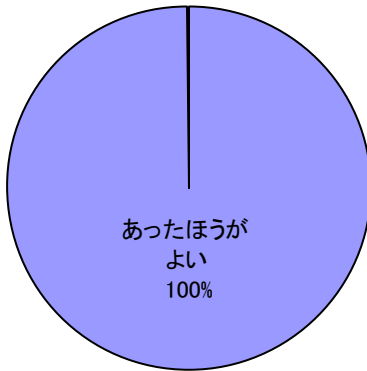
参加者教員歴



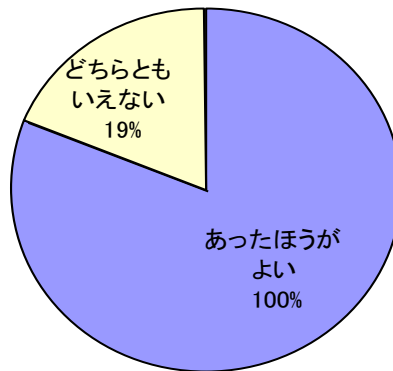


## 教員研修全体のプログラム構成について

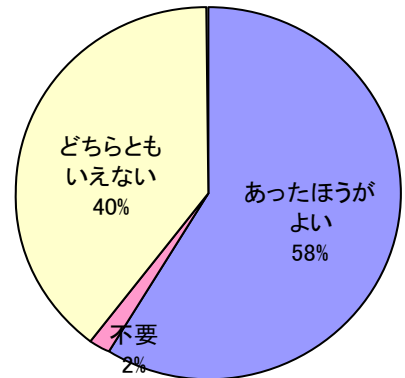
①教育講演



②賛助会員によるセミナー

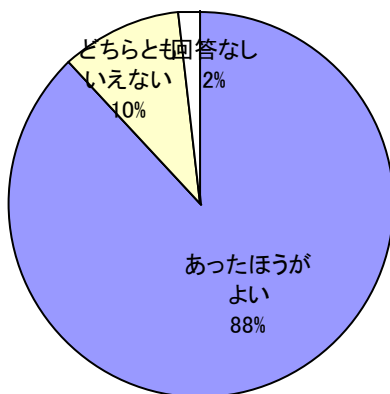


③器械展示

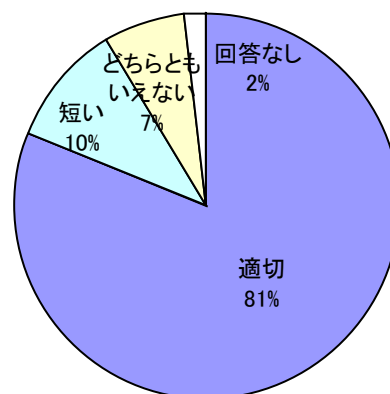


## 2-③. グループワークについて

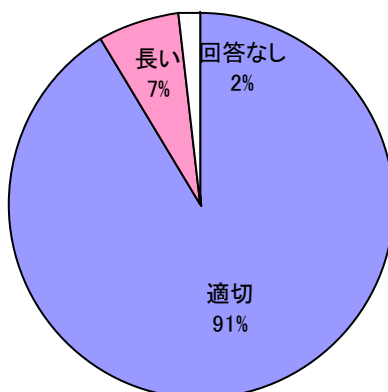
1) グループワーク



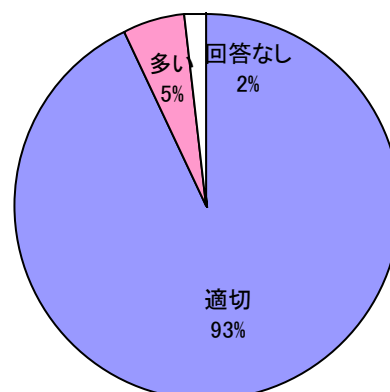
2) 時間配分は適切だったか



3) 個々の発表時間

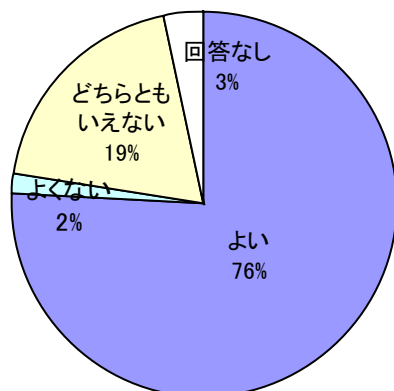


4) グループ人数

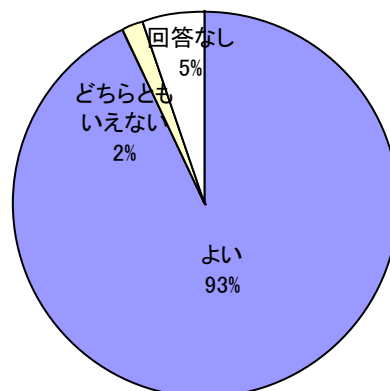


### 3. 研修会の運営について

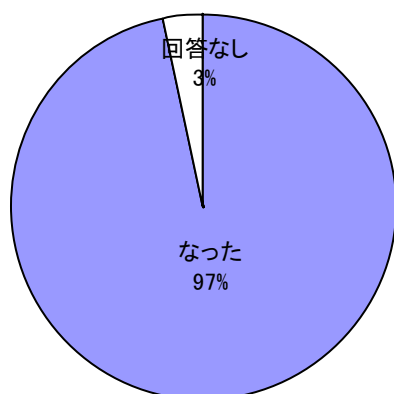
#### 1) 開催日の設定



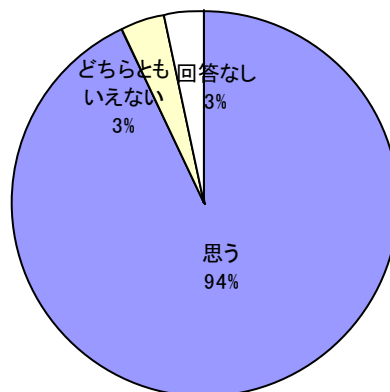
#### 2) 全体タイムスケジュール



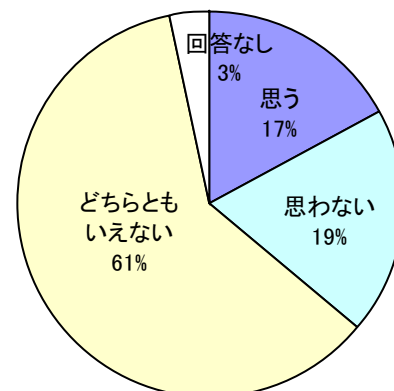
#### 4. 教育活動の参考になったか



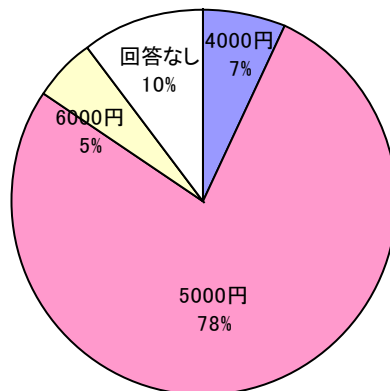
#### 5. また研修会に参加したいと思うか



#### 6. コマシバスの作成が研修会の中にあった方がいいか



#### 4. 参加費の金額はどのくらいが良いか



## 意見・感想

|              |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育講演<br>について | 意見・感想 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ OSCE について概要を知ることができてとても良かったです。</li> <li>・ OSCE に関して大変興味深いお話がきけました。</li> <li>・ OSCE についての理解を深めることができ大変良かった。</li> <li>・ 非常に勉強になりました。本校でも OSCE を取り入れるとともに、学生に有益なものとなるよう改革していきたいと思いました。</li> <li>・ OSCE 導入を考えておりましたので、とても勉強になりました。本校の評価方法はまだブラッシュアップする部分が多々あるので今後の参考とさせていただきます。</li> <li>・ OSCE の内容が明確になって、今後、実技試験と区別しながら取り入れていきたいと思った。今回の研修で OSCE を取り入れる学校が増えるとまた悩み相談が増えると思うので、またこのような内容の講演をお願いいたします。</li> <li>・ 教員歴も浅く、OSCE というものも今回の研修会を通して初めて知りました。また高崎先生のご講演により、実際にどのような方法で実施されているのかを知ることができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。</li> <li>・ OSCE を行うことで、学生の臨床能力を高めるだけではなく、授業を行う上でも内容の整理等にとっても役に立つと思いました。</li> <li>・ 教員歴が浅く学生の指導や評価をしていく上で、どうしていくべきか学院内の先生方に指導頂いているのはもちろんですが、川崎での学生の評価や指導を知ることのできる大変良い機会を与えていただきました。本当にありがとうございました。</li> <li>・ 当校では実技試験は行っていますが、OSCE は行っていないので目的や流れなど詳しくお話を聞くことが出来て参考になりました。</li> <li>・ 今後 OSCE を取り入れていけるように話し合っていきたいです。</li> <li>・ 当校でも OSCE を取り入れたいと考えている時だったので、大変参考になりました。詳しく教えて頂きありがとうございました。</li> <li>・ 初めて OSCE の事を学ばせていただきました。マンパワー不足など取り入れるには課題が多そうですが、臨床に促した授業、評価という面で大変有意義であると感じました。大変勉強になりました。</li> <li>・ 貴重なご講演をお聞かせいただきありがとうございます。すぐにでも OSCE を導入したい所ではありますが、開始に至るまでの準備が重要であり早速検討して参りたいと思います。</li> <li>・ 参考になり、刺激は受けたが実際的なものかと言えば、現実的には完全な実施は難しいのではないかと感じた。</li> <li>・ 高崎先生の客観的臨床能力試験（OSCE）について資料を含めた具体的な講演でとても勉強になりました。</li> </ul> |
|--------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|              |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育講演<br>について | 意見感想 | <p>実技試験だけでは臨床実習に対応しきれていないことは事実としてありましたが、患者（模擬）を通して検査を正しく行う技能とコミュニケーションの必要性をあらためて痛感しました。人員・時間等で各校での実施は各々異なるかと思いますが、OSCE を視野に入れて今後学生指導を考えて行きたいと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高崎先生の OSCE のお話は非常に興味深く、現在本校では取り入れてはいませんが、ぜひ取り組んでみたいと思いました。</li> <li>・ 非常に緻密に設定されておられ、良い参考になった。</li> <li>・ 大変勉強になりました。当校でも行ってみたいと思います。</li> <li>・ 勉強になりました。</li> <li>・ OSCE の活用についてとても参考になりました。</li> <li>・ OSCE について詳しく知ることができ、今後の教育に生かしていくことができそうなレベルまでご教示頂き参加がとても有意義であった。</li> <li>・ たいへん良かった。もう少しディスカッションできれば良かったと思います。</li> <li>・ とても勉強になりました。視能訓練士教育において OSCE が全国で実施されるとよいですね。</li> <li>・ 医学教育の分野で広まっている OSCE について視能訓練士教育に導入される手がかりになる講演を聴くことができたよかった。</li> <li>・ 今まで本校では実習に行く直前、実技試験、筆記試験は行っておりましたが、OSCE は実技と絡めてはほとんど行っておりませんでした。今後は高崎先生から教えていただいた内容を取り入れて、より実習に近い形で OSCE を実施できればと思います。</li> <li>・ 具体的な内容が聞けたので、今後の教育に生かせると感じました。</li> <li>・ オプトメトリストの教育・実態・歴史的变化を聞くことで、教育への次のステップに参考にしていきたいと思います。</li> <li>・ OSCE について体系だって学ぶ機会を得て大変参考になった。</li> <li>・ OSCE について具体的なシナリオや症例設定条件など呈示しながらの講演でとても勉強になりました。</li> <li>・ OSCE を実施する上で具体的な方法をおききすることは、これまでになくとても有意義でした。</li> <li>・ 導入しなければならない時期に来ており、具体的な設定までお伺いすることができてイメージを掴むことができました。模擬患者の設定が最も難しい点だと思います。養成教育の中で、全国共通のものを設けるのかどうかの検討も含め、今後の学校協会全体としての課題になっていくのかなと思います。</li> </ul> |
|--------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                      |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教育講演<br/>について</p> | <p>意見・感想</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ OSCE について知識を得ることができました。今後役に立てるようにしていきたいです。</li> <li>・ 教員になり OSCE という評価法を改めて学びました。今回の講演で視能訓練士教育に OSCE を導入した高崎先生からの直接教わる事が出来たので、とても有意義だったと思います。今回学んだ事は今後学生に還元していければと思います。</li> <li>・ OSCE のとりくみについて具体的なお話が聞けて大変良かった。</li> <li>・ OSCE については知っていたが実際にどの様に行われ、どのように組み立てられているのか知りませんでした。詳しい内容を知ることができたので、持ちかえり、今後の教育に活かしたいです。</li> <li>・ OSCE の内容、活用法について学ばせていただき、今後自分が担当する学生に対して何らかの形で行っていききたいと思います。実技試験と別に考えず、うまくミックスして使っていきたい。</li> <li>・ オプトメトリストについての制度を初めて詳しく聞けて大変興味深く拝聴しました。</li> <li>・ 非常に勉強になりました。OSCE を実施したいと思っていましたが、どのように実施すればよいか分からない現状でした。今回学んだ事をいかして、是非実施してみたいと思います。ありがとうございました。</li> <li>・ 他校の OSCE の運営についてうかがうことができ良かった。今後参考にさせていただきたい。</li> <li>・ 医学部ではポピュラーな臨床への判定になっているのでコメディカルである ORT も積極的に行うべきと考えていた。その点からも今回の講演は非常に有意義でした。高崎先生、ありがとうございました。</li> <li>・ 興味がある内容でしたので、とても貴重な話を聞くことができました。まだまだ準備していかないといけないことが多いが、少しずつ取り入れていけるようにしていきたいと感じました。統一したものと教育をしていくうえで重要に感じました。</li> <li>・ OSCE は取り組みたいと考えていたので、大変興味深く拝聴させていただきました。今後の勉強になりました。ありがとうございました。</li> <li>・ 非常に参考になりました。</li> <li>・ OSCE についての知識がほとんどなく視能訓練士教育に取り入れられていることを知り驚きました。これがもっと普及することを長いますが、いろいろと難しい課題も多く引き続けて教えていただきたいと思います。</li> <li>・ 臨床に送り出すための評価基準を点数化するヒントをいただき今後の参考にさせていただきます。</li> <li>・ OSCE の話を興味深く聞くことが出来た。今後学生に反映出来る部分がたくさんあった。</li> </ul> |
|----------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                      |                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教育講演<br/>について</p> | <p>今後聞いて<br/>みたい内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テクニカルスキルに関する教育方法</li> <li>・ 発達障害を持つ学生への指導</li> <li>・ 能動的な学習をさせるための学生指導</li> <li>・ 学生のモチベーションを上げる声掛け、注意の仕方</li> <li>・ ハラスメントについての実例や対策</li> <li>・ 再度 実習実技評価について聞きたいです</li> <li>・ 具体的な指導方法</li> <li>・ 臨地実習時前教育（指導）</li> <li>・ 初年時教育、学年ごとの担任のミッション</li> <li>・ 学生の基礎学力向上のための講演が何かあればと</li> <li>・ 基礎学力の向上について</li> <li>・ 今後の視能訓練士のあり方について視能訓練士協会の方に講演して頂きたい</li> <li>・ 学生面接のやり方（やる気を持たせる）</li> <li>・ <b>OSCE</b> を実際にロールプレイなどで見せてほしい</li> <li>・ メガネフレームの話などメガネのコアの話</li> <li>・ 学生の対応について <b>LD</b>、<b>ADHD</b> 等の学生対応</li> <li>・ 学生の精神的、心理的な対応の仕方の講演があれば、学生との接し方の参考になるように思う。</li> <li>・ ・コミュニケーションが適切にできない学生への対応</li> <li>・ 効果的な講義の進め方について（座学）。学生が一方的でなく参加する講義スタイルの方法。スライド作成のコツ。配布資料の作り方（空欄を設けるのか？）。</li> <li>・ 学習障害、サイコパスの対応</li> <li>・ 今の時代の若者の傾向</li> </ul> |
|----------------------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|             |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グループワークについて | 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• OSCE についてのグループワークだったと思うのですが、実技試験と OSCE が混在していたのではないかと思います。混在していたという事は、OSCE についての共通概念がまだ不足しているのではないのでしょうか。今回は OSCE についてというよりは、各学校でどのような授業がされているのかが分かって良かったです。CO (ORT) の養成校の数も増え、また 1 年生から 4 年生 (大学) があり授業内容にも大きな差が出てきていると思われますので、授業ガイドラインも見直しをしていかなければいけないと思います。</li> <li>• 何を GW するのかよくわからなかった。「評価表」を作ってくださいとの指示のみだったので、OSCE なのか実技試験についてなのか…など。</li> <li>• 第一希望でグループワークに参加されているにも関わらず自分が教えていないから…と意見を出してくださらない方がいます。事前に希望やアンケートを取る意味がなくなるので、今後はやめて頂きたいです。</li> <li>• 大学・専門学校などで養成年数が異なるので、色々な学校がある事を知ることが出来て良かったです。</li> <li>• グループワークでは、オスキー作成過程で日頃の疑問点を聞くことが出来たり知らなかったことを教えてもらえたり等、非常に有意義な時間だったと思います。</li> <li>• GW の方向性や目的をもう少し明確にして欲しいです。</li> <li>• グループ発表に質問が少なかったと思います。お互いの為にもあえて質問したほうが良いと思います。遠慮もあると思いますので 1 班の発表には 2 班から質問するなど発表グループに気づかないこともあるので工夫したらよいのではないのでしょうか。</li> <li>• グループワークの内容によっては時間が違うと思う。今回の内容であれば、もう少し具体的なお題があれば時間は適切であったのではないかなと思う。</li> <li>• テーマに対する全体的な質疑応答があっても良かったのではないかな。</li> <li>• 中々自分の考えがまとまらず、グループの方に迷惑・負担をおかけしてしまった。</li> <li>• テーマを個人が選択してグループが構成されていたが、教育歴等でグループを分けてから、テーマが提示されても良かったのでは…。</li> <li>• 色々な学校、先生の意見をお聞きできて大変勉強になった。</li> <li>• SNS の利用について</li> <li>• 質疑応答について、どういう視点で討論すればよいか戸惑った。(完成版の評価表ではないこと。したがって様々な考え方があって OK である事) 発表後にグループ内で意見をまとめる方法も良いかと思いました。</li> <li>• ワークの内容があやふやでスタートしてしまい、なかなか一歩目が出なかった。</li> </ul> |
|-------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                    |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>グループワークについて</p> | <p>意見・要望</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年、たたき台を作成するまでで終了しているので、実際に全国の学校で<br/>使用できるような問題集などをグループワークで作成してみてはいかがでしょうか。</li> <li>・ 本校の実技試験の評価表を見直す機会になりました。他校の実施されている<br/>内容をお聞きすることができてよかったです。</li> <li>・ グループワークの課題（ゴール）がやや曖昧な気がした。もう少し具体的<br/>なゴールを提示して頂けるとありがたい。</li> <li>・ 討議内容や目的、着地点の設定をもう少し明確にして頂けるとより深い討<br/>議ができたと思います。</li> <li>・ 評価表の作成…どの時期のものにすればよいか統一があったほうが良か<br/>ったと感じました。様々な先生との情報交換ができ有意義であった。</li> <li>・ 時間が限られるので、全グループが同じ内容のディスカッションでもよい<br/>かと思います。たとえば屈折なら屈折のみで全グループが話し合うと翌日<br/>の発表が色々な考えを聞けるかと思います。</li> <li>・ グループ分けが難しいと思います。でも、たまたま当たったグループでの<br/>出会いが楽しいので、OKです。</li> <li>・ グループワークの人数をさらに細分化（4～5人）位のほうが話が出てく<br/>ると思われます。教育歴によるバランスの良い配置が出来れば、更に実り<br/>あるグループワークができる。最初の説明にグループワークの目的が見え<br/>たので、話がしやすかった。</li> <li>・ 少人数で、どの先生とも会話ができ、各校の方法を知ることが出来て良か<br/>った。</li> <li>・ それぞれの背景が異なるとはいえ、目指そうとするもの、悩ましいことは<br/>基本的に共通することがわかりました。各発表をお聴きして、改めて気づ<br/>かされることもあり勉強になりました。グループディスカッションで進め<br/>る発表テーマをもう少し絞って頂けると行い易いように感じました。</li> <li>・ グループディスカッションで進める発表テーマをもう少し絞って頂けると<br/>行い易いように感じました。</li> </ul> |
|--------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



|           |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研修会運営について | 開催日の設定         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|           | 事前・直前アナウンスについて | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループワークで何をするかアナウンスしてほしい</li> <li>・ コスト面で難しさがあるかとは思いますが、最終的な案内は封書で頂戴できると安心です。ご検討下されば幸いです。</li> <li>・ グループワークのテーマがもう少ししぼったものだと話しやすかった気がします。目的が漠然としたものだったのでグループごとに目標がまちまちになってしまった気がしました。</li> <li>・ GW の話題内容を事前に詳細に知りたかったです。</li> <li>・ いつもご丁寧にアナウンスしていただけます事に感謝致しております。</li> <li>・ とてもスムーズであったと思います。</li> <li>・ グループワークの課題をもう少し詳しく教えていただいていると良い。</li> <li>・ 最終案内時でグループ分けがわかり(人数など)把握できてよかったです。ありがとうございました。</li> <li>・ 開催日の決定は学校行事を決定(新年度の)の前に可能であれば、前年度中に決定していただきたい。</li> <li>・ 学校内の案内図(自動販売機のある場所やトイレの数の多い階など)があると大変有難いです。</li> <li>・</li> </ul> |
|           | その他            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細やかな配慮ありがとうございました。</li> <li>・ お忙しい中お世話様です。お任せしっぱなしで申し訳ありません。オプトメトリーの話は大変おもしろかったです。海外の orthoptist のお話等もまたきいてみたいです。</li> <li>・ いつもありがとうございます。</li> <li>・ メンバーの皆様お疲れ様でした。次期メンバーも楽しみにしております。</li> <li>・ 討論が広がる工夫が必要かなと思いました。</li> <li>・ ご多忙の中、準備、会場設営、色々とありがとうございました。感謝いたします。</li> <li>・ 集合写真を1日目にしたのは時間的余裕ができて良かったです。修了書授与は同校で数名参加の場合は代表者でもよいのではと思います。</li> <li>・ 研修会を開催していただいた先生方、本当にありがとうございました。また参加させていただきたいと思います。</li> <li>・ W.G の先生方にのみ負担がかかっているので、もっと協力し合うべきだと感じました。</li> </ul>                                                              |

|                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>研修会<br/>全体に<br/>ついて</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お弁当も美味しかったです。ありがとうございました。</li> <li>・ 参加費はもう少し高くてもいいので、懇親会でご当地のもの（大阪なので粉ものとか）を食べたかったです。</li> <li>・ 有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。</li> <li>・ 今回初めての参加で、GW、懇親会等で他行の先生方と意見交換することができてとても楽しかったです。</li> <li>・ 多くの先生方が出席下さり、活発な意見交換ができ良かった。</li> <li>・ お忙しい業務の中、企画、運営と本当にありがとうございました。</li> <li>・ たくさんの先生方が参加されているので、もっと交流が深められたら良いと思います。GWの人数を増やしたり、討議ができればと思います。</li> <li>・ 日々の教育に直結している内容を選択頂き、今後の教育に反映し行きたいと思います。とても勉強になりました。ありがとうございました。</li> <li>・ 幹事の方の準備運営に感謝しています。ありがとうございました。</li> <li>・ ありがとうございました。有益でした。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>感想</p>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めて参加させて頂きました。今後の参考になりました。</li> <li>・ 教員として1年目なので、指導法など戸惑うことも日々たくさんあるのですが、今回学んだことを、明日からの指導に役立てたいと思いました。</li> <li>・ 他行の先生方のお話を聞いて、本校はやや実技試験等が厳しすぎたのかな？と考えさせられました。</li> <li>・ 年一回のこの研修に参加することによって、安心したり、共感したり、モチベーションが上がったりでき、短い時間でしたが有意義な研修でした。ありがとうございました。</li> <li>・ 各校の先生方の貴重なお話を聞くことで刺激を与えてもらいました。ありがとうございました。</li> <li>・ 研修会には初参加になります。やや緊張していましたがグループワークでは素直に疑問点などを質問させていただくことができ、他行の先生方との交流、情報交換等が大切だと感じました。</li> <li>・ 臨床現場とは異なり、学生にどう教えていくか、各学校のカリキュラムや指導方法を知る大変良い機会になりました。参加するまでに不安も大きかったのですが、今回参加でき本当に良かったと実感しています。</li> <li>・ とくにありません。様々な意見もあると思いますがWGの意見を通していただければよいと思います。</li> <li>・ 今回、OSCEについて講義を聴くことができ良かったです。参加できて良かったです。ありがとうございました。お疲れ様でした。</li> <li>・ 懇親会でもう少し動ける（交流できる）会場がよかったのでは？</li> <li>・ お忙しい中、準備等ありがとうございました。</li> <li>・ ご準備から当日のことまで教員研修WGの先生方本当にありがとうございました。</li> <li>・ ありがとうございました。</li> <li>・ 各学校の先生方と交流することで、同じような悩み、現状を共感することが出来安心で</li> </ul> |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 感想 | <p>あり、励みとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ランチョンの弁当はもう少し軽いものでもよかった。残して申し訳なかった。</li> <li>・ 時間的にユッタリしていて、懇親会もたのしくアクセスも便利で、赤松先生、横田先生達をはじめ大阪医療福祉の先生方に心から感謝です。また、湖崎先生のお元気な姿に感動いたします。本当にありがとうございました。</li> <li>・ 短時間の中で研修者同士での打ちとけて討論に入るまでが難しい面があると感じました。また、大学と専門学校で同じ討論をすることが難しい面もあると感じました。</li> <li>・ 各校のそれぞれ独自の工夫を知ることができ、自校の制約、特性を考慮しつつも取り入れていきたいと思われることがたくさんありました。後期から早速活かしていきたいと思います。ありがとうございました。</li> <li>・ 様々な取り組みを拝聴させて頂き、参考になりました。</li> <li>・ 参加させていただくことで、毎年、頑張ろうという気持ちになります。ご講演で教えていただいたこと、各校の先生に教えていただいた事を活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。</li> <li>・ 早く単位として認められるべきです。大変良いものなので。</li> <li>・ コマシラバス作成の研修会以来2年ぶりに参加させていただきました。今回は本校の今ある問題点について教員の皆さんにも共通していることがわかりました。また明日からがんばれそうです。ありがとうございました。</li> <li>・ 他校の先生方と情報交換が出来る良い機会だったと思います。</li> <li>・ 楽しく参加させて頂きました。ありがとうございました。</li> <li>・ 教員歴が浅く、ORT 育成と学生指導（担任業務）、オープンキャンパスなどすべてにおいて自信がなく、悩みばかりふえていたのが、今回の研修で少しすっきりしました。ありがとうございました。</li> <li>・ 指導上の困難、悩みが共通だと知り、また頑張ろうという気持ちになれました。何のトラブルもなく、おいしいお食事と運営にあたってお世話いただいた先生方にお礼申し上げます。ありがとうございました。</li> <li>・ 各学校の工夫を聞くことができたので、新しいアイデアの参考材料になり、非常に充実した研修となりました。</li> <li>・ 他校の先生方と意見交換でき、事例も聞かせて頂けて、楽しい2日間でした。又、学びの多い時間でした。</li> <li>・ 北から南まで日本のORT養成校の先生方と、お話しできる貴重な時間をありがとうございました。今回の研修会で得たことを、学生へフィードバックしたと思います。</li> <li>・ どの学校も同じ悩みを抱えており、逆に当校だけの学生が特別ということではない事がわかりホッとした気持ちもあります。入試の時に学生を選択できるようになると上位と下位の差が少なくなる気がしておりますので、もう少し知名度をあげて受験生を増やす努力をするとともに、下には手をかけ、上にはもっと伸ばせる教育を行っていくよう自分なりに考えて日々努力したいと感じております。ありがとうございました。</li> </ul> |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 感想 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベテランの先生のプレゼンの仕方が大変参考になりました。</li> <li>・ グループワークを通し、どの学校も皆さん悩まれている事は同じで学生気質もよく似ていることを知りました。各学校での取り組みをお聞きして、是非取入れさせていただきたいと思いました。このように情報を共有できる場を今後もずっと作っていただけたらと思います。ありがとうございました。</li> <li>・ 設置間もなく、他施設を参考にさせて頂きたいと考えますので、このような形で他の先生方とお話できる機会はとてもありがたいと思っています。他ではどうされているのだろう、ということの内容を学ばせて頂けるよう今後も参加したいと考えています。</li> <li>・ 他校との意見交換が大変有意義な時間となりました。2日間ありがとうございました。</li> <li>・ 各学校のよい部分を教育に取り入れていこうと思いました。実習、実技試験に関して自分なりに改善しようと思います。</li> <li>・ とても楽しく研修を受けることが出来た。全国から教員が集まる機会は少なく、非常に貴重な話を伺えた。ぜひもう一度参加したい。</li> <li>・ 各校の現状や取り組みなどを知ることが出来、大変参考になりました。GW はお互いにざっくばらんに話すことができる場であり、とても有意義でした。</li> <li>・ 私自身、内容の濃い研修会でした。グループワークおよび各班の発表にて学んだことを学生教育にとり入れていきたいと思っています。たくさんのヒントをいただきました。ありがとうございました。</li> <li>・ どの養成校でも同じような悩みをもっておられ、少しホッとしたところがあります。グループワーク発表で、参考にさせて頂き学生指導に役立てていきたいと思っています。<b>OSCE</b>についてもっと詳しく知りたいです。</li> <li>・ 教員が抱えている悩みを共有出来てよかった。ありがとうございました。</li> <li>・ 学生への対応には大変なことも多いですが、楽しんで係る姿で学生も育っていく学生の「自律」をうながす大切さをあらためて思った研修でした。</li> <li>・ 浅い教員経験の中で不安に思うことや、他校の対策法等を具体的にきくことができ、経験のある先生方や他校でも同じ様なことで悩んでおられることを知ることができ安心できました。情報が共有できたことも大変ためになりました。</li> <li>・ 他校の先生の取り組みが聞けてとても参考になりました。</li> </ul> |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## アンケート単純集計

| 設問                         |             | 回答       |       |           |           |      | 回答数 |
|----------------------------|-------------|----------|-------|-----------|-----------|------|-----|
| 教員研修全体のプログラム構成について         | 教育講演        | あったほうがよい | 不要である | どちらともいえない |           |      | 58  |
|                            |             | 58       | 0     | 0         |           |      |     |
|                            | 賛助会員のセミナー   | あったほうがよい | 不要である | どちらともいえない |           |      | 58  |
|                            |             | 47       | 0     | 11        |           |      |     |
|                            | 器械展示        | あったほうがよい | 不要である | どちらともいえない |           |      | 58  |
|                            |             | 34       | 1     | 23        |           |      |     |
| グループワークについて                | グループワーク     | あったほうがよい | 不要である | どちらともいえない |           | 回答なし | 58  |
|                            |             | 51       | 0     | 6         |           | 1    |     |
|                            | 時間配分        | 適切       | 長い    | 短い        | どちらともいえない | 回答なし | 58  |
|                            |             | 47       | 0     | 6         | 4         | 1    |     |
|                            | 個々の発表時間     | 適切       | 長い    | 短い        | どちらともいえない | 回答なし | 58  |
|                            |             | 53       | 4     | 0         | 0         | 1    |     |
|                            | グループ人数      | 適切       | 多い    | 少ない       |           | 回答なし | 58  |
|                            |             | 54       | 3     | 0         |           | 1    |     |
| 研修会の運営について                 | 開催日の設定      | よい       | よくない  | どちらともいえない |           | 回答なし | 58  |
|                            |             | 44       | 1     | 11        |           | 2    |     |
|                            | 全体タイムスケジュール | よい       | よくない  | どちらともいえない |           | 回答なし | 58  |
|                            |             | 54       | 0     | 1         |           | 3    |     |
| 研修会は教育活動の参考になったか           |             | なった      | ならない  | どちらともいえない |           | 回答なし | 58  |
|                            |             | 56       | 0     | 0         |           | 2    |     |
| また参加したいと思うか                |             | 思う       | 思わない  | どちらともいえない |           | 回答なし | 58  |
|                            |             | 54       | 0     | 2         |           | 2    |     |
| コマシラバスの作成が研修会の中にあっただほうがいいか |             | 思う       | 思わない  | どちらともいえない |           | 回答なし | 58  |
|                            |             | 10       | 11    | 35        |           | 2    |     |
| 参加費はいくらがよいか                |             | 4000円    | 5000円 | 6000円     | 7000円     | 回答なし | 58  |
|                            |             | 4        | 45    | 3         | 0         | 6    |     |

## 会長総評

平成20年に教員の資質向上と教育指導内容の充実をはかることを目的に始まった教員研修会は今回で第7回をおこなうことができました。8月20日、21日の2日間行われ、全国から24校、58名が参加されました。1日目の20日は川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科視能矯正専攻 教授高崎裕子先生による「視能訓練士教育における客観的臨床能力試験（OSCE）の活用について」の教育講演をしていただきました。視能訓練士養成校の学生が臨床実習に赴くにあたり、基礎学力や学業成績はもちろん、適切な臨床能力を身につけているかを試す実技試験を行っている養成校またはそのような実技試験を行いたいと考えている養成校にとって大変勉強となり参考とさせていただけるご講演となりました。視能訓練士は検査・訓練等の技術力および説明力が求められ、それを培うための実技試験をどのように行えばよいか、今回先生のご講演で学ばせていただき、今後の実技試験を考えていく上での指針となりました。その後グループに分かれ、「実技試験・実習評価について」のグループワークを行いました。2日目の21日はグループワークのまとめをし、発表を行いました。

ランチョンセミナーでは、賛助会員であるクーパービジョン・ジャパン株式会社 米国ドクター・オブ・オプトメトリー 村岡卓様による「アメリカにおける『ドクター・オブ・オプトメトリー』の教育：プライマリーケアのスペシャリストとして」を開催していただきました。アメリカでは眼科専門医の次の眼のプロフェッショナルであるオプトメトリーの教育プログラムと現状、歴史について教えていただきました。オプトメトリストの教育を知ることで視能訓練士教育を再度考える良い機会をいただくことができました。

今回の教員研修においても、昨年に引き続き賛助会員様に器械展示をしていただき、大変お世話になりました。ありがとうございました。

21世紀は情報革命と呼ばれ社会構造が転換しています。医療分野においても知識・技術はもちろん ICT を利用することが必須となっています。特に求められているのはルーティン業務だけでなく、さまざまな課題に対してよりよい対策を得るために異なる業種の方たちと連携し協力しあっていく＝チーム医療です。それぞれの専門スキルを発揮することはもちろんのこと、受け身でなく「自分の考え」を持ち、それをチーム医療の中で意見交換し深めていくことで社会に求められる人材となり自身も成長していくことができると思われます。知識・技術はもちろん ICT を駆使し自分の考えを持ち、チームで連携・協力できる視能訓練士を養成校は輩出していくことが求められており、教育機関としての役割はますます大きくなっています。

全国視能訓練士学校協会教員研修では今後も社会情勢や教育環境の変化へに対し尚一層有意義な研修にしていきたいと考えております。社会に貢献できる視能訓練士を輩出するために、視能訓練士教育の充実と教育の質のますますの向上を目指して、教員研修を続けていく必要性をより一層感じました。

お忙しい中、企画から開催、報告書作成まで大変ご尽力いただきました、教員研修ワーキンググループの諸先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

全国視能訓練士学校協会  
会長 赤松滋子



## 編集後記

平成 26 年度 第 7 回教員研修の報告書を皆様のお手元へお届け出来る運びとなりました。参加者数も過去最多の 58 名となり、研修終了後ご協力いただいたアンケートにも、日ごろ皆様が肌で感じる視能訓練士教育についての熱く深い思いが詰まっていました。迷い、壁にぶつかりながら成長して行くことは先生も学生も同じです。変化に対応し、かつ普遍的なものをしっかりと持ちながら医療教育に臨まれる先生達の奮闘の姿がアンケートを通して伝わってきました。研修が皆様の日々の学生教育にお役にたつことを願い、研修報告書をまとめさせて頂きました。

次回の教員研修会にはさらに充実したものになるよう努めさせていただきますので、今後ともどうぞ宜しくご理解とご協力をくださいますようお願い申し上げます。

平成 27 年 2 月 吉日

平成 26 年度教員研修ワーキンググループ

代表 小林泰子（川崎医療福祉大学）

横田敏子（大阪医療福祉専門学校）

提嶋紀枝（吉田学園医療歯科専門学校）

露無陽子（帝京大学）



# 全国視能訓練士学校協会 加盟校一覧

|    | 施設名               | 学科名                          | 所在地       |
|----|-------------------|------------------------------|-----------|
| 1  | 吉田学園医療歯科専門学校      | 視能訓練学科                       | 北海道札幌市    |
| 2  | 北海道ハイテクノロジー専門学校   | 視能訓練士学科                      | 北海道恵庭市    |
| 3  | 東北文化学園専門学校        | 視能訓練士科                       | 宮城県仙台市    |
| 4  | 東北文化学園大学          | 医療福祉学部 リハビリテーション学科 視覚機能学専攻   | 宮城県仙台市    |
| 5  | 仙台医健専門学校          | 視能訓練士科                       | 宮城県仙台市    |
| 6  | 新潟医療技術専門学校        | 視能訓練士科                       | 新潟県新潟市    |
| 7  | 新潟医療福祉大学          | 医療技術学部 視機能科学科                | 新潟県新潟市    |
| 8  | 国際医療福祉大学          | 保健医療学部 視機能療法学科               | 栃木県大田原市   |
| 9  | 専門学校日本医科学大学校      | 視能訓練士科                       | 埼玉県越谷市    |
| 10 | 帝京大学              | 医療技術学部 視能矯正学科                | 東京都板橋区    |
| 11 | 東京医薬専門学校          | 視能訓練士科                       | 東京都江戸川区   |
| 12 | 首都医校              | 視能療法学科                       | 東京都新宿区    |
| 13 | 北里大学              | 医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻 | 神奈川県相模原市  |
| 14 | 平成医療専門学院          | 視能訓練学科                       | 岐阜県岐阜市    |
| 15 | 平成医療短期大学          | リハビリテーション学科 視機能療法専攻          | 岐阜県岐阜市    |
| 16 | 愛知淑徳大学            | 健康医療科学部 医療貢献学科 視覚科学専攻        | 愛知県長久手市   |
| 17 | 名古屋医専             | 視能療法学科                       | 名古屋市中村区   |
| 18 | 洛和会京都厚生学校         | 視能訓練士学科                      | 京都市山科区    |
| 19 | 滋慶京都学園 京都医健専門学校   | 視能訓練科                        | 京都市中央区    |
| 20 | 大阪人間科学大学          | 医療福祉学科 視能訓練専攻                | 大阪府摂津市    |
| 21 | 大阪医専              | 視能療法学科                       | 大阪市北区     |
| 22 | 大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校 | 視能訓練士学科                      | 大阪市淀川区    |
| 23 | 神戸総合医療専門学校        | 視能訓練士科                       | 兵庫県神戸市須磨区 |
| 24 | 川崎医療福祉大学          | 医療技術学部 感覚矯正学科 視能矯正専攻         | 岡山県倉敷市    |
| 25 | 松江総合医療専門学校        | 視能訓練士科                       | 島根県松江市    |
| 26 | 福岡国際医療福祉学院        | 視機能療法学科                      | 福岡市早良区    |
| 27 | 平松学園 大分視能訓練士専門学校  |                              | 大分県大分市    |
| 28 | 九州保健福祉大学          | 保健科学部 視機能療法学科                | 宮崎県延岡市    |
| 29 | 西日本教育医療専門学校       | 視能訓練士学科                      | 熊本市東区     |



平成 26 年度  
教員研修会報告書

平成 27 年 3 月発行

発行 全国視能訓練士学校協会

平成 26 年度事務局 大阪医療福祉専門学校  
〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 1-2-14

( 許可なく複写転載を禁ず )